

## 「生きることの「ワクワク感」を思い出して欲しい」

### はじめに伝えておきたい事

あなたやあなたの奥様、彼女、ご友人の生理が、普通ではない・子宮や卵巣に異常があると知っていて、このページをご覧の方は、迷ってないで、急いで「広尾」で診察を受けてください。

のっけから乱暴な、と思われたでしょうが、私は「広尾」を知りながら、実際に足を運ぶまでに8年も迷いました。生理痛やその他の症状を悪化させ、もがき苦しみながら。子宮筋腫や卵巣嚢腫、腺筋症の場合、「保険診療」の範囲では、子宮や卵巣を残したまま健康な体に戻るなど、ほとんど不可能だと思います。

私は広尾に辿り着くまで、あちこちの病院で、ノラリクラリとした医師の態度に腹を立て、業を煮やし、完璧な「病院不信」に陥るまでさまよい続けました。体だけでなく、精神的にもかなり追い詰められてしまったのです。そうなってしまう前に、苦しんでいらっしゃるあなたや、あなたの奥様や恋人、お友達、早く「広尾」で診察を受けてください。手術するかどうか迷うのは、その後でもいいでしょう。お金のことは、健康になってしまえば何とかなるのです。

体の不調で弱気になっている方はそんな簡単な開き直りもできないほど、精神的にもまいっているのです。そんな自分を可哀想だと気づき、早く適切な治療を受けて、自分に対する自信を取り戻してください。そして1日も早く、充実感が体にみなぎる、健康な生活を取り戻して欲しいと願います。

### 発病？

生理痛が激痛へと変わっていったのは、23歳頃です。当時、広告代理店に勤めておりました。仕事は多忙を極めていましたが、辛かった事はありません。ですが、生理は重くなっていきました。鎮痛剤の効果が切れるのが恐ろしく、いつも指定の時間より短い間隔で服用していました。

出血もだんだん増え、「お粗相」してしまったことも数回。同僚の女性にコッソリお使いを頼んだ事もあり、山ほどのナプキンの他に、替えの下着やスカート等を持ち歩かないと、不安で仕方なくなっていました。でも、生理の状態を人と比べることもできないので、これでも普通なんだ、と自分をごまかし続けていました。

27歳頃、生理痛だけでなく、ひどい貧血（健康診断で「要治療」）と日々の不正出血、などなど完璧に「おかしい」と自覚。倦怠感がひどくなり日々の生活にも支障をきたし始め、ついに病院へ。最初、近所の婦人科へ行きました。簡単に超音波検査をして「筋腫だ」と告げられましたが、治療をどうするか、具体的な話は全く無く、診察終了。どうやらその医師は、早く昼食に出かけたかったようでした。

私はショックで泣く泣く帰りながら、楽しげに食事に出て行く医師と看護婦たちを見かけ、更にガッカリしたのを覚えています。（この時、斎藤先生の著書を読んでいたのですが、自費診療だと分かり、若い自分にそんな大金は無いから、と諦めていたのです。人生最大の失敗。）

### 国立埼玉病院へ

国立埼玉病院での診察は、最初の病院よりかなりマシでした。担当の先生も、限られた時間ですが、丁寧に説明してくれました。

右卵巣にかなり大きな腫瘍があり摘出した方が良く、と言われましたが、手術は怖かったので「薬で治せるならそれを試して欲しい」とお願いしました。ホルモン療法の始まりです。最初ボンゾールを服用しましたが、体重が増えて体調も良くなかったため、スプレキュアに変更。ホルモン療法がカラダに良いものではない事は承知していましたが、それでも生理の苦痛から逃れられた喜びの方が大きかったです。

仮初めながら、体調も気分も上々でした。半年後、再び卵巣の検査をしましたが、腫瘍は小さくなっていませんでした。CTスキャンで見た卵巣は直径7センチもあり、先生から摘出を促されました。この先生を信頼していましたので、納得した上での処置でした。

28歳、「右卵巣全摘出、左卵巣一部摘出、子宮内膜症の処置」という手術でした。

## 再発？

生理痛が治まっていたのはわずかな期間で、術後2年も経つ頃には、再び生理痛と月経過多に悩んでいました。子宮か卵巣に異常があるのは、様々な症状からも分かっていましたが、病院でそれをハッキリ知らされるのは怖かったし、その結果、また手術するのはもっとイヤでした。

会社では生理休暇が定められていましたが、だんだんと1日では済まなくなり、出血や痛みのピークを過ぎていくはずの4日目に、突然激痛が起こったり、ウツカリ時間を忘れて働いていると、ズボンやスカートに染み出していたりと、自分の体ながら全く手に負えません。鎮痛剤も、一般に宣伝されているような薬では効果がなく、強い薬が必要になっていました。

## 「広尾」を訪れる前に

近所に開業したばかりの婦人科があり、「新しければ新しい技術や治療を望めるかも」と単純に考え、ちょっと期待して行ってみました。超音波検査では、残った左の卵巣が腫れているとの事。治療に対する期待は裏切られ、「漢方薬で卵巣の腫れが引くか様子を見て、生理痛がひどかったら鎮痛剤を飲んで」と言われ、ガッカリでした。なぜなら、その漢方薬は、以前に国立埼玉病院で処方されたのと同じ薬で、ホルモン療法と並行して服用していたのと同じ物でした。

それでも3ヶ月ほど服用を続けましたが、結果は私の病気には効果が無いと分かっただけでした。ホルモン療法を希望し、生理痛のあまりの辛さに、いっそのこと全摘出して欲しい、とも言いましたが、その医師は煮え切らない態度で「そんなに簡単なことじゃないのよ」と言ったきりでした。

その個人病院を見切り、国立埼玉のあの先生なら納得のいく説明と処置をしてくれるのでは？と国立埼玉病院に戻りました。しかし、当時担当だった先生は転勤か何かでいなくなっており、代わりに若い女医が担当でした。ホルモン療法を望んだ私に「医療関係の方ですか？」と尋ねてきたのには笑いました。一般向け医学本程度の知識しかない私に、何を言っているのでしょうか？そうでなければ患者をバカにしているとしか思えない。不信感の芽生えです。

ホルモン療法に必要なだからと、血液検査や子宮体癌検査を受けましたが、一向に治療がスタートする気配が無く、何が問題なのかも説明の無いまま、検査を繰り返そうとするので、この女医に対する不信感はますます募りました。ここにも見切りをつけ、ついに「広尾」に行くことを決心しました。

## 広尾で

まず驚いたのは病院らしからぬ暖かい雰囲気。ソファには待ってる人が居らず、私一人でした。少し不安に思いつつ診察室へ。

まず、お腹の上から超音波の映像を映し「これ卵巣、これ子宮、卵巣が少し腫れているねえ」等と次々に説明されました。その映像をプリントし、「これが子宮なんだけど、前面に向かって腫れているのが分かる」など、たった1回の超音波検査で、今までの病院では考えられないほど、詳しい説明をしていただけました。

もっと驚いたのは「内診」されなかったことです。症状によっては内診する場合もあるのかもしれませんが、私は広尾では1度も内診を受けていません。そうすると、これまでの病院での内診は一体何だったのかしら？とさえ思えてしまいます。もっと詳しく診察していただきたかったので、MRIの予約をして帰りました。

## 手術を決心

MRIでより詳しい検査をしたら、自分の想像以上に、お腹の中はとんでもない事態になっていました。内膜ポリープらしき陰、醜く膨らんだ子宮壁、腫れあがった卵巣…。先生は医学的知識の無い私がキチンと理解できるように自らイラストを書き、丁寧に説明してくれました。

あまりの事に混乱していた私には、説明の半分も聞こえていませんでしたが、先生が「これは治せるよ、キレイに治る。卵巣も残せるし。」と、事も無げに、自信満々におっしゃっただけはしっかり聞こえました。説明後、「何か尋ねておきたいことは？何でも聞いておかないと」と言われ、やっとの事で「先生が手術をされた方で、再発された方はいますか？」とだけ尋ねました。先生は「今のところいない」と、これも自信たっぷりに即答されました。私の迷いは吹っ切れ、手術を受ける決心がつき、手術の予約をして帰りました。

## 手術まで

手術は半年も先でした。（今はもっと混んでいると聞いています。）私には、待っている間の生理を耐える自信がありませんでした。七転八倒して脂汗・冷や汗の流れる痛み、塊になった経血がドクドクと出て、痛みをごまかす強い鎮痛剤を飲む…。考えただけでも恐ろしい、生理の状態でした。先生に「耐えられないのでホルモン療法をしてほしい」と訴えましたが、「ホルモン療法は卵巣機能を著しく低下させるからなるべく我慢して」と諭され、我慢することにしました。最後の辛抱です。

## 金策

貯金ゼロの私でしたが、手術代を貸してもらえよう母に頼んだところ、すんなり貸してもらえました。母も筋腫で子宮と卵巣を全摘出しており、私のつらさを理解してくれていたからでしょう。高額だけど、これで健康なカラダに戻れるなら決して無駄でも贅沢でもない、と言ってくれました。これで、手術を受ける準備は整いました。

## 入院・手術 2000/09/25

手術の前日から食事を制限し、当日空きっ腹をかかえて入院。一応、夫についてきてもらいました。看護婦さんの手でテキパキと手術の準備がすすめられ、手術。

術後、斎藤先生が「よく頑張ったね」と声をかけて下さいました。「頑張ってくれたのは先生ですよ」と、お礼を言いたかったのですが、麻酔でへ口へ口になっていた私は、先生の言葉に笑顔でうなずいたつもりでしたが、実際にはどうだったことやら…。病室で待っていた夫にも笑いかけ、何か話したそうです。私がヘラヘラと元気そうなので、夫は安心して帰れたようでした。

## 手術後～退院

翌日の夕方には、お水や重湯を口にして、3日目には普通の食事をモリモリ食べていました。あまりにも調子が良いので、まだ内蔵は普通の状態ではないというのに、昼食のうどんをツルツルっと普通に食べたら、消化不良を起こしてしまい、夜中に看護婦さんや先生に大迷惑をおかけしてしまいました。消化によさそうな食事でも、まだまだちゃんと噛まないといけなかったんだな、と反省しました。

私の“入院トピックス”はこの程度です。2日目には院内を歩き始め、同期入院の方々と“出てきたモノ”を自慢？しあい、楽しく過ごしました。あっという間に退院日。せきやくしゃみに気をつければ傷も痛くないし、ほとんど普通の生活ができるまでに回復していました。すごい事です。おかげで私は、翌週月曜日から職場復帰しました。

無理な残業はできませんでしたが、デスクワークなので支障なく働けました。会社で働くより電車通勤の方が、傷をかばうのに苦労しました。それも最初のうちだけで、2ヶ月目には傷も全く痛くなくなり、すっかり普通の生活に戻っていました。

最初の生理は驚くほど軽く「え、こんなチョッピリ？」という程の出血でした。でも、よく考えたら病気ではなかったと思える頃の生理は、こんな感じでした。常備していた鎮痛剤は1粒も口にする事なく、ついにはパッケージが破れてしまったので捨てました。

### 3ヶ月後検診

術後3ヶ月以上経過したら、再びMRIを撮影し、検診を受けます。それまでに4回の生理がありましたが、驚くほど出血が少なく、痛む事ありませんでした。「これが健康な生理なのだ」と、改めて実感しました。母も非常に驚き、そして喜んでくれました。

今までの習慣が抜けきらず、ナプキン交換の時間を気にしたり、「生理用品セット」を大量に持ち歩いたりしていますが、そのうちどちらも気にする必要は無くなりそうです。また、今まで無駄に失われていた「血」が失われなくなり、精神的な苦痛から開放されたお陰か心にも体にも、何とも言えない「充実感」がみなぎってくるのです。子供の頃、夏休みの朝、朝日を浴びながら「今日も遊ぶぞ〜！」と心の底からワクワクしていたあの感じ。あれと全く同じ感覚を、35歳の今、確かに感じるのです。

## 「生きることの「ワクワク感」を思い出して欲しい」(その2)

高松七恵 (35才)

## 広尾で手術を受ける前と術後の、体調や心の変化

文章で書くと、とてつもなく長くなりそうなので、簡単に表にまとめてみました。私の体験を、もっと色々と聞いてみたいという方は、メールにてお問い合わせ下さい。 [takamachu@hotmail.com](mailto:takamachu@hotmail.com)

	術前	術後
生理痛	七転八倒の痛み。痛さで脂汗冷や汗がダラダラと流れる。どんな姿勢になっても痛むため、横になっても休まらない。 薬はメフェナム酸というかなりキツめの市販薬を常用していたが、それも効かなくなりロキソニンを処方されるようになる。	無し。生理直前に多少重い感じがするのみ。
不正出血	多かれ少なかれ、出血しない日はない。通常はおりものシートで大丈夫だが、大量に出血し下着を汚す事も頻繁にあり。	無し。1日1枚のシートで事足りる。
貧血	1回目の手術前は健康診断で要治療(D)、広尾での手術前は平常値よりやや低い程度の貧血。	改善。正常値
月経過多	血の塊がレバー状にドクドクと出る。高性能ナプキンが1時間でアウト。パスタオル2枚重ねで寝ても汚す事があり、緊張してよく眠れない。いつ「粗相」するかと気が気ではなく、何事にも集中できない状態。	無し。ナプキン交換が惜しいくらい少量。
排便通	最初の手術後、癒着を起こしたのが原因と考えられる排便通あり。特に生理日にひどく、排便時に、リキリと内臓が引き攣れるような痛みを伴う。	広尾の手術で癒着を処置してもらい、今は無し。
性交痛&出血	いつも可哀想なくらい夫が気を使っていた。性交後は必ず出血。	痛みも出血も全く無し。
運動時下腹痛&出血	運動好きでスポーツクラブに通いはじめたが、運動中下腹部が痛み、突然出血。いつもそのような事になるので、止む無く運動を断念、クラブ休会。	家で腹筋などの軽い運動しても大丈夫。3月からクラブ復帰予定。
気持ちの問題	好きな運動もできずストレスが溜まり、ままならない自分の体にかなり参っていた。殆ど自暴自棄。毎日がだるく、やる気のないどうでもい毎日。	気持ちが開放され、何とかなるさ、と開き直れるようになった。日々、わくわくする感じ。

## 私の記録

### おかしいな？と思いはじめた頃

23歳頃から生理痛がひどくなり、出血もだんだん多くなっていった。生理日以外の不正出血も毎日の事で、貧血や倦怠感も日々増していき、「生理中だけツライ」という状態ではなくなっていきました。

### 「広尾メディカル」に辿り着くまでの経緯

#### 埼玉県のとある個人病院

- 27歳頃、あまりにもひどい生理痛と貧血、倦怠感、低血圧などのため、近所の婦人科へ。

#### 国立埼玉病院

- CT検査の結果は「卵巣嚢腫」。1年近く、ホルモン療法（ボンゾール、ズプレキュア）を試し、漢方薬も服用したが効果無し。当時、担当だった先生は説明もキチンとしてくれ、信頼できたので手術に踏み切る。右卵巣全摘出、左卵巣一部摘出。子宮内膜症も同時に処置。
- 2年後には、術前の状態（生理痛、月経過多、貧血など）に戻る。

#### 練馬区のクリニック

- エコーで「卵巣が腫れているようだ」と言われる。ホルモン療法を希望したが漢方薬を処方され、「様子を見よう」となった。私の望む治療は受けさせてもらえず、結局、この病院では生理痛も卵巣の腫れも改善されなかった。

#### 国立埼玉病院

- 担当だった先生がいなくなっていて（転勤？）、別の医師が担当だった。ここでもやはり、前のクリニックと同じ漢方薬と鎮痛剤で「様子を見よう」と言う。ホルモン療法を望んだが、ガン検査や血液検査を繰り返そうとするだけで、治療に取り組もうという気配が感じられなかった。基礎体温表や様々な検査についてもロクに説明してもらえず、その医師を全く信頼できなかった。
- そこの医者は信じられない、このままでは自分がダメになる、と強烈に感じ、「広尾」へ行く決心をする。

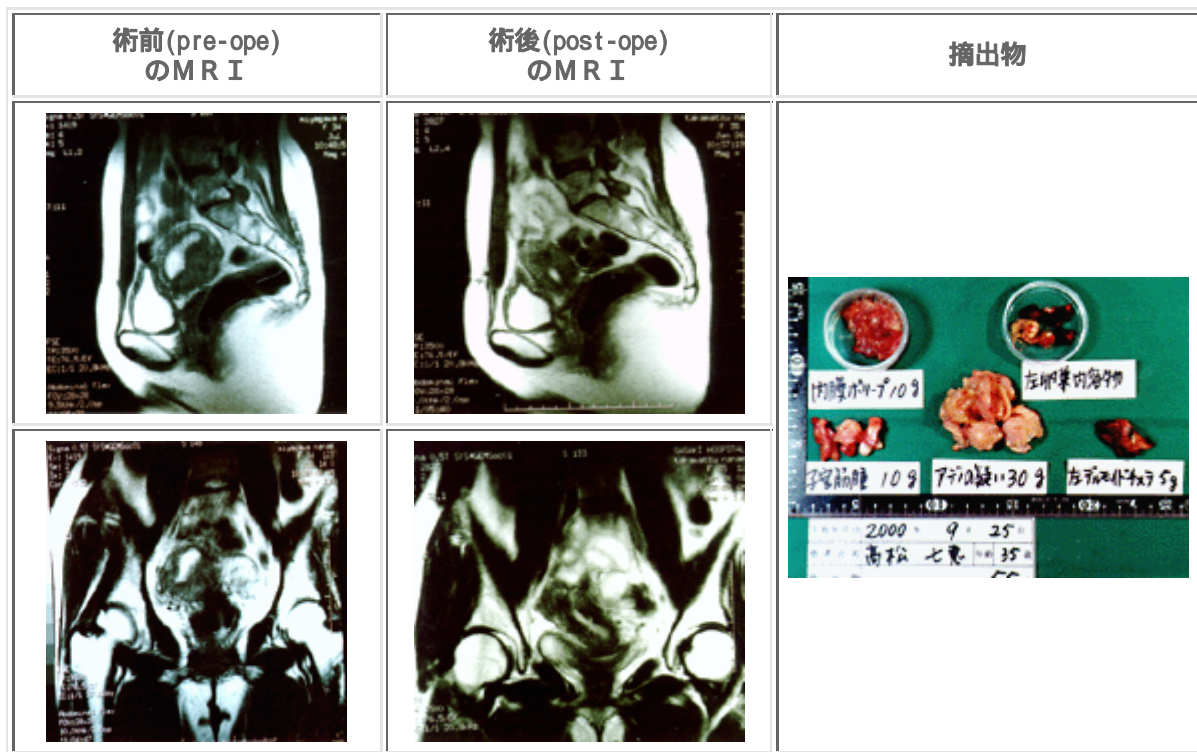
## 35歳のワクワク感

“病院ジブシー”の末「広尾」に辿り着いたという人は、「広尾」には多いと思います。中には「広尾」を最後の切り札として“ジブシー”されていた方も、少なくないでしょう。私もそんな一人です。

8年前に先生の著書を買っていながら、なかなか「広尾」に足が向かいませんでした。「自由診療 - 保険がきかない治療を受ける - 」というのは、かなり勇気が必要な事。ですが、治療を終えた今、迷ってないで「広尾」で診察を受けて欲しいと強烈に思います。迷うのは診察を受けた後からでもいいじゃありませんか。自分の体や生活が大切ならば、正確な診断と適切な処置を受けていただきたいのです。

私の場合、8年間は惜しむに十分な時間ですし、生理痛以外にも色々と「不都合な事」があったので27歳のあの時に広尾を訪れていれば...、とかなり後悔しています。ですが、35歳の今、無事手術を終えて体調も回復し、「人生まだまだこれからだ！」と気合充分です。

失った時間は戻ってこないけど、これからの時間を充実させる事は十分に可能になったのです。子供の頃の夏休み、「今日は何して遊ぶか？」と思いを巡らせていた時の「ワクワク感」が心の底から湧きあがってきます。大袈裟な、と思われるかもしれませんが、私の体は、それほどまでに変化したのです。



	術前 (pre ope)	術後 (post ope)
赤血球 (RBC)	392	397
血色素 (Hb) (g/dl)	11.6	11.9
ヘマトクリット (Ht)	34.0	36.5
備考	摘出物： 内膜ポリープ 10g 子宮筋腫 10g アデノの疑い 30g 左デルモイドチステ 5g	

## 「子供は5人、でも子宮は残したい！」

前島政子（44才）

21歳から9歳まで、5人の子供を持つ平凡な主婦の私が、体験した事についてのレポートです。日記形式になっており、乱雑な言葉や、文章が出てまいります事の失礼を、お許し頂きたいです。日々悩み、苦しんでいる方たちの、お役に少しでも立たせて頂ければ幸いと願っております。

**生理が怖い**

「死ぬかもしれない…」ととうとう恐れていた事が、起こってしまった。

出血が17日間も止まらない！月の半分は、体調が悪く、生理が始まれば体中が痛み、熱も出てくる。溢れんばかりに流れ出る出血に、起きる気力も、体力もないそんな中での出来事だった。毎月来る生理が恐くて恐くて、この数年間自分をごまかし、騙しながら何とか過ごして来たが、もう私の体は限界だった。

症状は毎月ひどくなる。爪は反り返り、薄っぺら、色も艶もなく先のほうから割れてきて、人前では、手を出せない。貧血のせいで、心臓が悲鳴をあげているのがわかる。お風呂は寒い冬でも腰から下だけしか入れない、心臓に負担がかかるので、苦しくなる。犬の散歩なのに、私が犬に散歩させてもらっていたと、言った方が正しい。なだらかな坂も、苦しくなり足が前に進まないの、犬に引っ張ってもら。寝る時は、横向きで枕を2つ重ねて高くするのに、心臓がバクバクして寝られない。いびきもひどくなり苦しい。毎晩不安との戦い…。こんな生活が続くはずもなく、12月28日を迎えてしまった。

終わるはずの生理が、何日経っても終わらない、この日が我慢の限界だった。病院へ行き、出血を止める手術をしてもらう（麻酔をして子宮の中で固まった血を掻き出した）。1週間経ってようやくおさまり、少しほっとした。あれだけ出血したのに、母は強し！止まるとまた力が湧いてくる。子供達の為にも、頑張らなくては……。

でももう限界だった……。

**先生が信頼できない**

「できてる場所が悪いので、すぐオペしたほうがいいよ、子供が5人いるのだからいいじゃない、将来子宮ガンにもならないし病院を紹介するから、すぐ行きなさい！」初めて子宮筋腫と言われた病院の先生の言葉。ショックだった。

「手術するか、しないかは、あなた自身の考え方で決めればいいのですよ。手術をしたくない人は、漢方で楽になる事があるから飲んでみますか？もし気が変わって手術を希望するなら、何時でも電話下さいね、すぐ病院を紹介しますから……」2件目に行った病院の先生の言葉、優しかった……気がする？

全摘が納得出来ず「これは男の先生だから悪いのだ。女の先生ならきっと私の気持ちや苦しみを、救ってくれる」と言う考え方に変わっていった。テレビや雑誌で有名な、N先生の病院を探し予約をいれた。1ヶ月待ち、私は少し希望を胸に神奈川へ、向かった。女性スタッフばかりでなんとなく安心し、来てよかったとほっとした。

私の順番がきて、超音波で子宮を見て、それから診断を下してもらったがそれがこの言葉だった。静岡へ帰るころには、もう疲れ果てて失望感だけだった。「一言、子宮を残せますよ！」と言って欲しかった……。

「もう無理ですよ！限界です！手術してくださいよ！」2月28日私の出血を、止めてくれた先生の、言葉です。（御願いですから、もういいかげんにしてよ的な言い方）3人の先生全員が、全摘しか頭にない感じで、私は先生達に不信感を持ってしまった。



子供を5人も育ててくれた、子宮だからこそ、全摘なんて許せなかった。私の体は、私の物だ！と、日に日に思いは強くなるが、体の状態は、ひどくなり、どうしていいか解らなくなってきた。もう全摘しかないかも…。」私はあきらめかけていた。

## 子宮が残せるかもしれない！(広尾メディカルクリニックとの出会い)

我が家にパソコンが入った！子宮筋腫といわれ、ショックを受けたが、何の知識もない事に気が付いた。インターネットで病気を調べてみれば、色々な事が解り、「もしかしたら全摘をしなくていい方法を見つけられるかもしれない」と言う希望がわいてきた。

病気 子宮筋腫と進めていくうちに、何件かの病院の患者さんの入院レポートが目に入ってきた。全摘手術をされた方が、どんな思いでここまでできたのか少しわかった気がした。辛く悲しかったに違いない、改めて女性は強いと思う。でも、子宮を残したい！そして私は広尾メディカルクリニックに出会った。私は、この時を待っていた…と言う言葉しか浮かばない。

「子宮が残せる！私の大切な子宮を残してもらえる！」ブラックジャックの様な先生がいた事に、驚いた。嬉しさでドキドキし、早く先生に会ってみたい衝動にかられた。早速予約を入れてもらい、2週間後私は夫と鶴見駅に立った。期待と、不安で一杯だった。

## ブラックジャックとの出会い

駅前からタクシーに乗ったが、クリニックを運転手さんが知らなかったので、「もしかしてもぐりの病院？」いまだから笑える様な出来事だが本当に不安だった。

玄関を開けてビックリ、明るい室内と、沢山の観葉植物、そしてなにより驚いたのが、ダックスフントのワンちゃんが、飛び出してきた事。たまげた、ここはいったい何処？と言う感じがしたが、静かで、空気がきれいで、ポカポカしていて、私はまったく違う世界に来てしまった様だった。

そして、看護婦さんが先生を呼んでくださった。先生は、インターネットで見るとより、素敵だった。(言い過ぎ?) さっそく診察して頂きその結果、「子宮は、残せますよ。」とうとう望んでいた言葉を聞く事が出来た。この言葉を聞きたいが為に、今まで苦しんできたが、もう終わり、万歳！私は心から齋藤先生に感謝した。

診察のあと、料金やその他の説明を、2階で事務長さんにしていただいた。子宮が残せるという喜び、しかしそれに伴う費用を考え、一瞬迷いが出たのも事実だった。家に戻った次の日に、「5月29日に手術を受けたい」と言う返事を病院へ入れた。約4ヶ月近く間があり、確かに不安もあったが、早く楽になりたいという願いのほうが強かった。

## 不安

4ヶ月近い間に、クリニックから何の連絡もないし手術の検査も手術2週間前、なんだかとても不安になった。貧血も毎月ひどくなっているのに、増血剤も出してくれないなんて何かおかしいな、と思った。

「本当に手術が出来るのだろうか?」「今の私の状態で手術が耐えられるのか?」「手術を受けるのをやめようか、もしかしたら少し落ち着くかもしれない」小さな疑問が、大きくなってしまったので、先生にメールを送った。

「貧血の検査もなかったし、何故増血剤を出してもらえないのですか?」(貧血がひどいのに、おかしいのでは?と言いたかった。)間もなく先生から直接電話を頂いた。まさか先生から電話があるとは、思っていなかったので驚いた。

「今体が良い状態ではないので、増血剤を出してまた悪くしたくない。増血剤を飲んだため、胃を壊したり、具合の悪くなる人がいるので、余計なものは出したくない。」と言われた。体の具合が悪くなるのと平行して、心の具合まで悪くなっていたのだ。それは、検査前日、手術まで後10日というところまで続いた。

## 手術から退院まで

手術前日、1人で鶴見のホテルへ泊ったが、初めての一人旅でワクワクした。7時以降雨が飲めないで、「6時59分59秒までなら飲んでいいのだ」と自分で自分をなぐさめたりして…。

手術をすることより、水が飲めないと言う事の方が私にはこたえた。「2日も我慢できるだろうか…」思えば思うほど喉が渇く気がしてたまらない(お腹はガボガボ状態)。

そんな不安を抱えながらも、先生や看護婦さん達の、お力添えで無事手術を、終える事が出来た。手術中レゲエの音楽が、少し薄れた意識の中でとても心地よく、「緊張をとくのに、手術中は音楽がいいと思って、今まで演歌とか色々試したけど、レゲエが一番良かった。」と患者の為にここまで考えてくれる先生が、いるのでしょうか？本当に有り難い事と思います。(歯医者さんは、見習って欲しい)。

手術は、お腹がちょっと押される感じや、つれるかな、程度の体の負担だけで、思っていたより痛みもなく終わった。何より、笑いも出る霽意に、どれだけ慰められて助けられたかわからない…。

(本当に私は小心者)これが、子宮全摘だったら、この辛さは比ではないはずだ。手術後、それなりに色々あったが、(人によって、症状が違うと思う。)筋腫での苦勞を考えたり、もう苦しむ事もない、と考えたらこんな事で負けれない、頑張るぞ!と思った。

入院中のデータ、写真、手術中のカルテ等を、先生がファイルにして退院前日に渡して下さった。入院前に、疑問を病院に向けた身として、申し訳なさで一杯だった。そして、本当に6日目で退院となった。

## 10ヶ月が過ぎて

「数年も、筋腫で悩んでいたなんて、うそみたい。」「保険が利かなく、費用で悩んでいたのが、うそみたい。」「手術中に、麻酔が切れたり、痛かったらどうしよう。水を、飲まないで、生きていけるのか。」「悩んでいたのが、本当にうそのよう。

退院後、3週間目に生理がきて、驚いた。こんなに、少なくていいのかと、疑ったぐらい今では、3日で生理が終わってしまう。本当にうれしい!貧血も2ヶ月でほぼ平均値になった。生理のたびに、体中痛くなり、熱が出て、苦しんだわたしは、もういない!

## 悩める女性たち、そして今の自分

子供が何人いるから、子宮はもういらぬなんて、絶対あるはずがない!将来子宮ガンにならないから、子宮はなくてもいいなんて、あるはずがない!ガンではないのに、全摘なんてぜったい許せない!

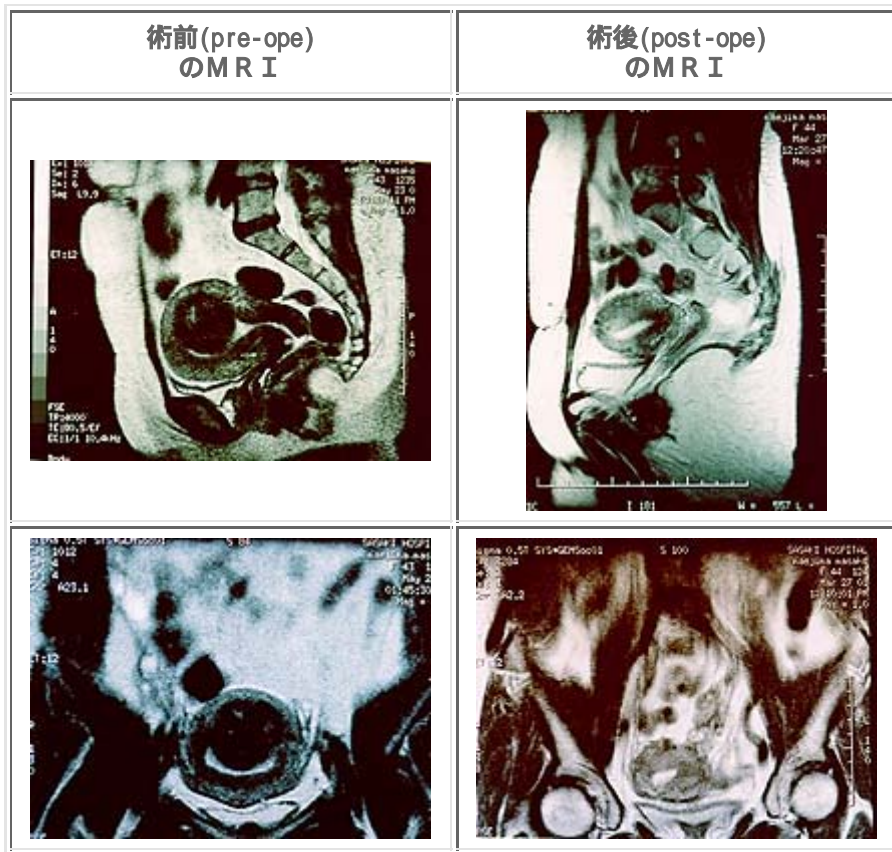
苦しみ、悩んでいる全女性に対して、こんなに健康になれるのだと言う事声を大にして、伝えたいと思う。お金の事、手術の事、いろいろあるけれど、健康でなければ誰も幸せになれないし、してあげられない。健康が、お金で買えるなら、私は買いたいと思う。そして又元気になったら働いて、返せばいいではないか。

女として、母として、社会人として、頑張りたいと願ってるし、子宮を残したいと願った選択は、決して間違っていないと確信している。

私のつたないレポートを読んでくださった女性たちに、「人生頑張るって欲しい」と願ってやみません。「人生を変えるのは、自分自身である」と言う事を、忘れないで欲しいと思うのです。子宮は絶対残せるのですから!

最後に、手術をして下さった齋藤先生、1週間お世話をして下さった4人の看護婦さん、心配してくれた親や姉達、お金を黙って出し手術を勤めてくれた夫、いない間頑張ってくれた5人の子供達、私の為に心配をして下さった全ての方々に、心の底からお礼が言いたいと思います。

健康を取り戻し、減量も成功し、私は変わりました。44歳となりましたが、今とても幸せです!メールでの質問もどうぞ。[Maejima@ruby.ocn.ne.jp](mailto:Maejima@ruby.ocn.ne.jp)



	術前(pre ope)	術後(post ope)
赤血球(RBC)	424	434
血色素(Hb) (g/dl)	8.0	13.0
ヘマトクリット(Ht)	25.8	39.4
備考	術前主訴：生理が多い、腰痛、疲れやすい。 摘出物： 腺筋症 150g 粘膜下筋腫 45g 内膜ポリープ 0.1g	

「持病も軽減。健康な日々に感謝します。」

## 赤ちゃんほどの巨大筋腫

お腹が肥ってきた？と思い始めたのは、27～28歳頃でした。

「おめでたですか？」33歳頃、手術直前の私のお腹は、まさに妊婦さんそのものでした。好意的に声をかけてくださった方に、まさか「いいえ、これは筋腫なんです。」なんて言えるわけもなく、「ええ、まあ・・・」などと曖昧に返事をして変に気を使い、くたびれたりしていました。

妊娠すると胎児の成長とともに内臓が圧迫され、1度に食べられる量が減ったり、腸の動きが鈍くなったりすると聞きますが、それと全く同じ事が私の体にも起こっていました。それに、日常のかがむ動作でお腹がつかえる、仰向けはお腹の重みで苦しく横向きでないとい眠れない、すぐに息切れがするなど、動作の面でも妊婦さんと同様の苦勞を味わいました。

スカートやズボンは毎年毎年着られなくなり、無意識にお腹をさすったりしていました。それでも妊婦さんは日々の苦勞と引き換えに生理はありませんし、苦勞の先には可愛い赤ちゃんの誕生というご褒美もありますが、私には何もありません。巨大な塊をお腹に抱えて辛い日々でした。

私の筋腫が発見されたのは、産婦人科ではありません。

私には「ライター症候群」という持病があり、これがカラダに色々とお悪さをします。足腰背中での痛み、発熱、胃痛、カラダのこわばり・・・。数え上げたらキリがありません。現在は根治療法が無く、現れる症状を対処的に療法するしかないそうです。

それはさておき、29歳の12月、身内のお葬式で長時間の正座をしていたら、脚全体が歩けないほど痛くなってしまい、整形外科に行きました。検査のためMRIを撮ったら下腹部に15cmもの筋腫がある事が分かり、MRIの技師の方も整形外科の先生も驚いていました。

後日、同病院内の婦人科へ。年輩の医師が、診察後、やる気無さそうに「もうダメダメ。子宮も潰れてるし腸と癒着してるよ。」と、それだけ。治療方針の説明や私が通える病院への紹介などという話は一切ありませんでした。困ったな～とは思いましたが、激しい生理痛や貧血などの深刻な症状はありませんでしたので、何となくほったらかしにしてしまいました。

30歳の時、「ライター症候群」が発症し、某医大病院に入院しました。様々な精密検査を受けている過程で、またしても私の“巨大筋腫”が先生方の話題に上り、婦人科の受診も余儀なくされました。

「この大きさだと手術は免れません。年齢的にもまだ若いし子宮を全摘しるとは言えません。ですが、この大きさで子宮を残すとなると相当大きな手術になるし、そうなるとう傷の治りも遅いし、術中の輸血も必要、持病もあるので普通の人よりリスクです。全摘出した方がカラダへの負担は軽くて済みます。今はとりあえず持病の治療をして、それが一段落したらまた考えましょう。」開腹してダメだと判断したら全摘出する、とも言われました。

最初の医師よりかはマシですが、「子宮を残すのは無理、全摘した方がいい」と言われたのと同じです。でも、全摘出は絶対イヤでした。

32歳の夏。持病の治療が一段落したので、婦人科で再診しました。筋腫のあまりの大きさに、長期の入院を余儀なくされる事と家庭の事情が折り合わず、手術ができる状況ではなかったため、とりあえずホルモン療法で様子を見ることにしました。（ナサニール使用）

半年間の治療後、ウエストがキツかったGパンがはけたので、「小さくなっている！」と思いましたが、医師の判断では効果無し。それにナサニール使用中は持病の症状が強く現れるのか、体中の筋肉がひどくこわばり、動作が極端にノロノロしていました。電車から降りるのも1駅前から出口近くで準備しないとダメなくらいです。これは今考えると、恐ろしい影響だと思いました。

## 全摘出以外の道を模索、でも・・・

同年、暮れ。我が家にインターネットを導入しました！持病は仕方なくても、筋腫は何かしら治療法があるはずだ！と思い、調べまくりました。すぐに「広尾メディカルクリニック」を発見して、ものすごく興味をそそられたのですが、自由診療だったのが不安で、最後の切り札として取っておくことにしました。

年明けて1月。某市立病院で「子宮を残す筋腫摘出手術」を、行っているという番組を見ました。“保険治療で子宮が残せるかも！”心の奥に期待を秘めて、初診の申込みをしようと思ったら、受付の看護婦でもなさそうな事務員の人に「筋腫の保存手術を受けられるのは、筋腫がコブシ以下の大きさで貧血の症状があり筋腫のできている場所が限定される人なのよ」と、先に言われました。

あなたは医師じゃないでしょう？と内心ムツとしましたが、TV放映後、問合せや診察の申込みが殺到したのでしょう。病院側の事務的対応としては仕方の無い事かもしれません。ですが、必死の思いでやって来る人たちに対する態度ではないような気がしました。とりあえず診察は受けられましたが、やはり医大病院と同様の処置しかできないと言われ、医大病院よりは順番が早く手術が受けられる、という事が分かっただけでした。

29歳から32歳まで、いえ、もっとそれ以前から、筋腫をほったらかしておいて平気だったの？とお思いでしょう。私の場合、筋腫の巨大さにもかかわらず、貧血や寝込むほどの激痛はなかったのです。

確かに生理中は体調が悪くなりグッタリします。鎮痛剤も飲んでいましたが生理痛で寝込んだことはありません。出血も多く、トイレでドボドボと“塊”が出ていましたが、貧血にはなっていませんでした。でも、いくら自覚症状が少ないとはいえ、こんな大きな塊が腹腔内にあって健康なはずはありません。

手術前にはタンポンすら正しく使えないほど、筋腫が腹腔内で膨らんでいたようです。夫婦生活もお互い気を使ってかなり味気なかったと思います。それにこの筋腫、小柄な私には大荷物。2,700g以上もの荷物をお腹につけて、毎日の生活。足腰への負担はかなりのもので、持病を悪化させているようでした。

これ以上筋腫を成長させると、ほかの部分もダメになる！いよいよ覚悟を決めて、「広尾」を訪れたのは平成11年10月19日のことでした。

## 初診から手術・術後まで

「広尾」は病院らしからぬアットホームな建物とインテリア、斎藤先生もお医者様らしくなく、白衣も着けずにおしゃれな格好でいらっしゃいました。ちょっと怖い感じもしましたが、お話しているうちにそんな印象は無くなりました。

「大丈夫、残せるよ。もっと大きい人も残せたんだから」と先生に言われ、このチャンスに賭けようと思い決しました。5日間の入院なら夫にもさほど迷惑はかかりませんし、何よりも、介護中の親への力仕事か1カ月間で復帰できると言われ、とてもうれしかったのです。費用の事は夫にも相談しました。私の辛さをよく理解してくれていたのも、すんなり賛成してくれました。

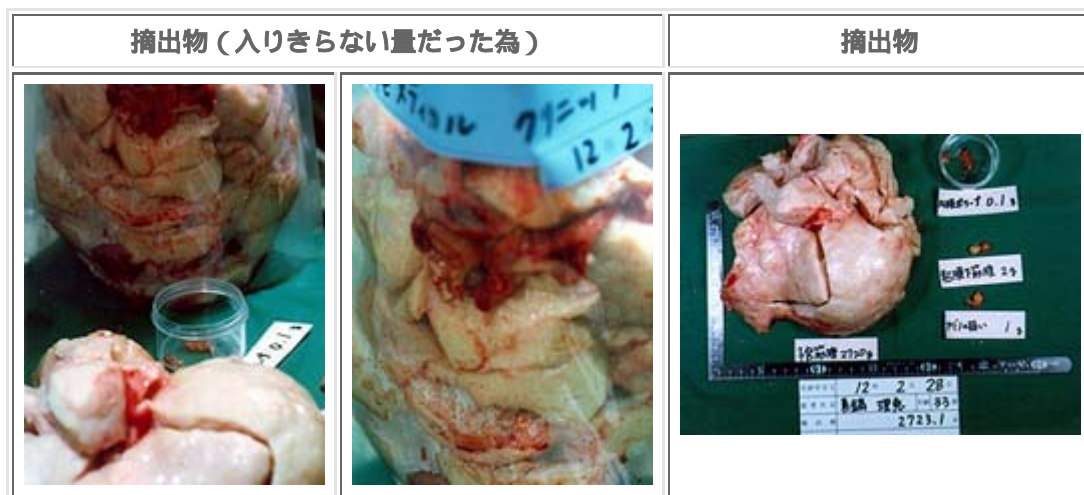
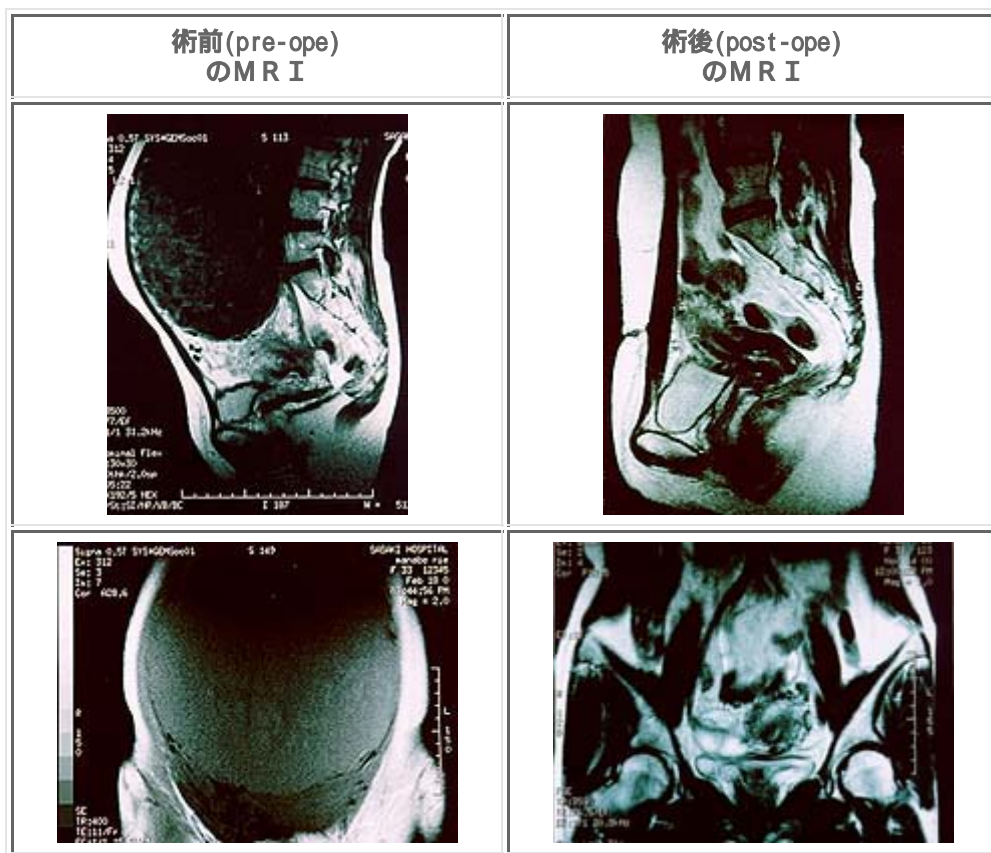
平成12年2月28日に手術して1年経った今、お腹はすっかりペチャンコで、当時では考えられない程元気になりました。ですが、手術や入院中には色々なアクシデントがありました。持病のせいで心臓に負担がかかるため麻酔をあまり効かせられず、縫合された時は少し痛かったし、手術中の血圧もかなり上下していたようでした。なぜか、雪山で遭難して「眠ってはいけない！」というシーンを思い浮かべてしまいました。

術後、巨大筋腫がなくなっても、動きの鈍くなっている内臓が急に活発になるワケではありません。入院中は食欲が無く殆ど食べられず、食べてもなかなかガスが出ず苦しいし、傷は痛いし・・・。かなりストレスフルな日々。

でも、タイヘンだった記憶は退院後20日くらいまでで、それ以降はグングン元気になり、今では体は軽いし、食事は人並みに美味しくいただけるし、生理は軽いし・・・、いい事ばかり！「痛い辛い」を耐えた甲斐がありました。元気な私を、主人も喜んでくれています。

持病のせいで足の付け根が痛むのだとばかり思っていたら、その痛みも軽減していました。きっと、筋腫に圧迫された痛みもあったんですね。他にも持病のせいだと思っていた症状が、だんだんと軽減しています。

せっかくこうして元気なカラダを手に入れたのですから、持病ともうまくお付き合いして、健康で心豊かな生活を送りたい、と心から思います。そして、難しい持病がある私の手術を無事成功させ、健康な体へと導いてくれた斎藤先生と広尾メディカルクリニックの皆さんに、夫や両親共々本当に心から感謝しています。



	術前 (pre ope)	術後 (post ope)
赤血球 (RBC)	409	442
血色素 (Hb) (g/dl)	12.3	13.4
ヘマトクリット (Ht)	36.7	43.2
備考	摘出物 : 2723.1g 筋腫 (Leiomyomad) 2720g 粘膜下筋腫 (Submucosal) 2g 腺筋症 (Adenomyosis) 1g 内膜ポリープ (Endometrial Polype) 0.1g	

Copyright (C) 2001  
 HIROO MEDICAL CLINIC

## 「子宮を手術した私に自然分娩の可能性が！」

平良淳子（29才）

**とにかく病院はキライ**

私はこれまで入院するような大病の経験が無く、注射や薬が大嫌いなので、自力で治せるなら自力で、病院にかかるなら「最短期間で治せる最良の治療法を」がモットーでした。

まともに病院に通った記憶は20代の初め頃。オッパイに小さな小さなシコリができましたが、良性なので切り取る必要は無いと言われました。ですが、切らずにいると検査のために通院しなくてはなりません。それがたまらなくイヤで…。

どうしても切除してほしいという私に、お医者さんも心配して、「若い人は、普通切らないくらいの大きさなんだよ。」と言ってくれましたが、切除してまえば検診で通院する必要はなくなる 不安も消える 切除してほしい、という私の意思は変わらず切ってもらいました。

通院の必要がなくなり、サバサバしたものでした。短気に思えるかもしれませんが、とにかく通院・検査・注射・薬、どれも大嫌いなので、早く遠ざかれるのなら最短で治療する方法を選ぶ私でした。こんな私が開腹手術を受けたのかと今でも不思議ですが、やはり私にとっては「最短・最良」方法だったのです。

手元にはクリニックからのカルテや写真があり、泣くほど痛かった注射を思い出します。あの注射に比べたら、手術の傷なんて痛くないのと同じでした。

**生理痛から逃れるためのイケナイ行動**

生理が始まった10代の頃は全く何とも無く、普通の生活を送っていました。

20歳を過ぎる頃から段々と痛みが現れ、最初は何とか鎮痛剤を飲まずに耐えられる程度の痛みが、20代半ばを過ぎる頃には激痛へと変わり、薬に頼らざるを得なくなり、パファリンを愛用？していました。服用すると生理痛は治まりますが、何だか変にテンションが上がります。薬のせいで「トンじゃってる」状態です。感覚が普通じゃなくなっていると感じました。それだけキツイ薬だったのだと思います。

だんだんと薬が効かなくなり服用間隔も短く、なかなか痛みが治まらなければ規定量より多く服用するなど、体に悪くイケナイ事だとは分かっていたのですが、一旦生理痛が暴れ始めると本当にタイヘンなのです。私には、薬を少々メチャクチャに飲んで多少カラダが傷むより、生理痛の苦しみの方が恐ろしかったのです。

薬が効いている間はいいのですが、薬が切れて痛みが暴れだしたら、やっかいです。たった数歩、数メートル先のベンチまで行く事すら困難な・どんな姿勢になってもダメな・楽な姿勢が無い痛み。内臓を絞られるような・差し込むような、「動けない」としか表現できない痛みです。この痛みのせいで、どれだけひどい目にあったことか…。

朝、家を出るときは平気だったのに、通勤途中で「痛みの予感」があり、電車を降りることもしばしばでした。そうなるともう、自力で動くのは不可能です。一緒に通勤している夫に水を買ってきてもらい、ベンチで薬を飲み、痛みが治まるのをひたすら待ちます。駅のベンチで、夫に「いってらっしゃい」したことも数回です。

さらに会社からの帰宅、1日痛みも無く無事だった…と安堵感と共に電車を降りた途端に痛みが襲われ、体が固まってしまいました。そういう時に限っていつも持ち歩いている薬を持っていなかったりするんです。痛みで冷や汗・脂汗をかきつつ、必死の思いで家に電話をかけ、薬とお水を駅のホームまで持ってきてくれるよう夫に頼みました。夫は私が動けなくなるとどのくらいタイヘンかよく知っていますので、駅からは徒歩5分なのに車で迎えに来てくれました。



友人と海外旅行に行った時も買い物や観光・・・、と楽しんでいたら突然の痛みが！薬はホテルの部屋に戻らないとありません。せっかくの旅行だったのに、その日の予定はそこでストップ。友人にも心配をかけ、台無しでした。

「生理が始まってから何日目までは痛く、それ以降は大丈夫」と決まっていれば対処のしようもあるというのに、「今日は大丈夫」と思っていたにも、昼過ぎや夜に突然痛くなるのです。鎮痛剤が効いて痛みが治まるまでの1～2時間は、本当に辛く、耐えがたい時間でした。

## 軽い「検診」のつもりが・・・

27歳で結婚して子供はいずれ欲しいと思っていましたし、友人が「そんなにひどい生理痛は何かオカシインじゃないの？」と言うものだから、それなら検査ぐらいは受けなくちゃ、という気持ちになりました。が、私は大の病院嫌い・・・。「どうせかかるなら良いお医者さんでないと」と思い、インターネットで調べました。「広尾メディカルクリニック」を探し当て、ホームページをじっくり読んで、これだけの実績があれば大丈夫かな？と、思い、軽く「検診を受けるだけ」のつもりで、夫婦2人してクリニックを訪れました。

エコー検査で、斎藤先生は画面を指しながら説明してくださいましたが、「こっちの腫れてるほうが問題だねえ。」という一言で私は大パニック。私自身、自分が病気だなんて微塵も考えていませんでしたから。この日だって「ハイ、異常なし。痛いときは\*\*してね」程度で帰れるものと考えていました。ものすごくうろたえていましたが、先生の「これなら手術すれば生理痛は無くなるし、今まで手術した人たちで痛みの無くならなかった人はいないよ。」という言葉はシッカリ聞こえました。

いつまでも痛み止めの薬はアテにできない ホルモン療法は絶対にイヤ ならばここで手術するのがベスト。例の決断の早さがここでも発揮されました。「ここで治療するしか道は無い！」と決めたものの、費用は大丈夫？手術を待ってる間はどのような？などなど、疑問や考え事が色々ありました。

また、この年の暮れに新居へ引越しというイベントも控えており、こんな時期に手術なんかして引越しの時に働けなかったらどうしよう？という不安感もありました。そんなことは、今になれば全て杞憂だったのですが・・・。

「私を治してもらうのは広尾以外あり得ない」と決断しつつも、多少の迷いと予定との兼ね合いなどあって、なかなか踏み切れずにいました。ですが生理のたび突然の痛みに怯え、薬漬けになり、誰かに面倒を付け続けるよりは、手術して、あの痛みとオサラバしようと思い、手術の決心がつかしました。手術予定が10月と、私にとってタイミングの良い時期だったのも幸いでした。

## 手術と入院・一番苦しんだ事

平成11年10月手術日。手術前、手術のために色々な処置をされ、注射をされます。普通は、皮下注射より筋肉注射の方が痛いといいますが、私はアレルギーテストの皮下注射が強烈に痛く、泣きそうでした。看護婦さんに「もう1本、痛い注射があるのよ。」と言われ、ビクビクしていましたが、その注射は平気でした。

麻酔も、動く危険だということにビクビクして動いてしまい、看護婦さんに手を握ってもらいました。点滴は何ともなかったのですから、きっと私は、皮膚をチクリとされるのが極端に苦手なのでしょう。入院中の注射も看護婦さんに『裏技』を使ってもらい、痛くないようにしてもらいました。看護婦さん達にも、本当にお手間をかけたと思います。

私のお腹から出てきたのは、本当に小さい、ひとかけらのニンニクのような筋腫とわずかな内膜ポリープだけでしたが、たったこれっぽっちのカケラが私をあんなに苦しめていたのか、と思いは複雑でした。体験談のように、大きな筋腫でも自覚症状の無い方もいるし、私のようにカケラほども激しい症状がある人もいたり、本当に分かりにくい病気なんですね。

術後、なかなかガスが出ずちょっと苦しい思いをしました。食事をするとお腹がパンパンに張って、ご飯前はスタスタ歩いていたのが、食後はお腹が苦しくて動けないという状態が続きました。（決して食べ過ぎではありませんよ。）ご飯が消化されれば元気な状態に戻るし、お通じはキチンとあったので心配はしていませんでした。ほかは至って良好。元気に過ごしました。

退院前日・金曜日の夜。患者4人集められ、「これから食事に行くから」と先生の車でドライブに。術後4日目だというのに、普通では到底考えられないイベントです。アクアラインから千葉方面へ向かい、おいしい魚料理をいただきました。その後お台場に行って「うみほたる」で記念写真。その写真を今見ても、全然「普通の人たち」です。とても術後4日の人たちには見えません。

ところが入院中の一番苦しい出来事が、このドライブ中に起こりました。先生のくだらない冗談がツボにはまり、私だけ笑いが止まらなくなったのです。いくら元気に振舞っても、お腹の傷はまだまだ痛いんです。痛くて痛くて、なのに笑いがとまらない…。本当に、あのくだらない話は止めておいて欲しかった、と今では笑い話ですが、その時は本当に痛くて辛かったんです。先生は今も変わらず、ヘンな冗談を言っただけで患者さん達を楽しませているんじゃないかなって思います。

術後の生理は快適でした。最初は始まる時に何となく重い感じがして、恐怖感にかられて薬を1回だけ飲みましたが、2回目以降は何とも無く、薬も必要なくなりました。全く痛みが無く、普通と変わらない生活ができるのです。感激でした。

12月の引越しの頃にはすっかり元通りに元気になっていて、テキパキ働けました。不思議なのは生理の始まりが自分でわかるようになったこと。以前はトイレで「あれ、始まっている」と分かっていたのが、術後は「あ、流れる」と、何かがお腹の中を流れる感覚が分かり、そうしたら程なく始まります。同じ人間の感覚がこうも変化するのは不思議でなりません。

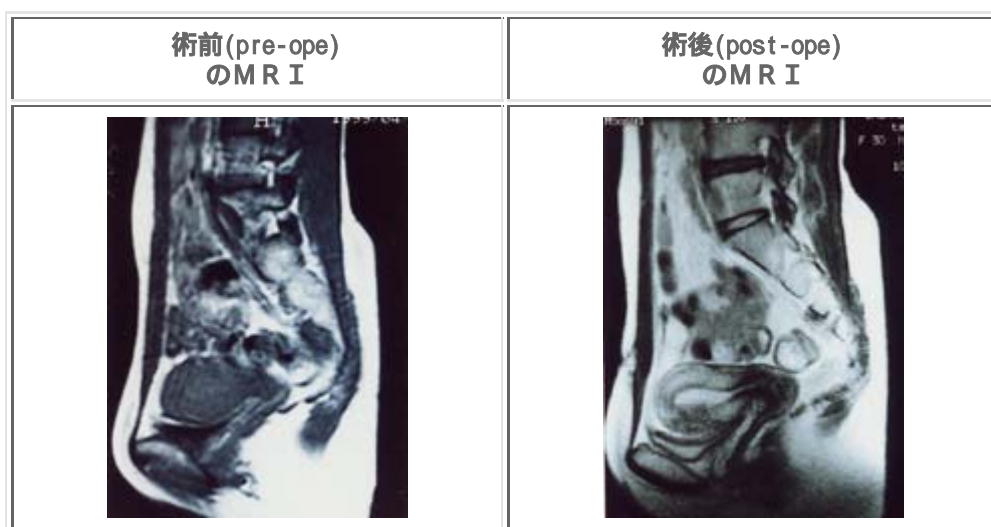
### もうすぐ「お母さん」

私は、健康で何とも無い生理の幸福感を長く味わえませんでした。妊娠したのです。既に臨月です。今かかっている婦人科の先生は、「なるべく自然分娩で、どうしても無理なようだったら帝王切開しましょう。」と言ってくれました。

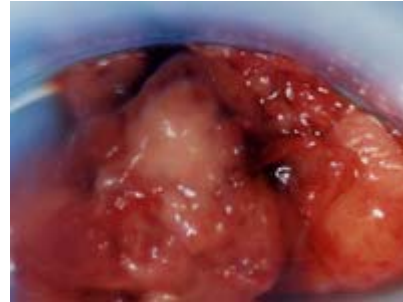
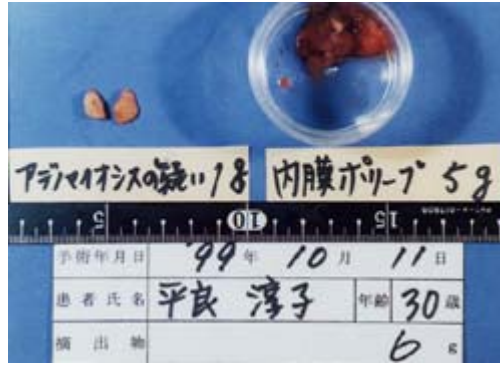
なるべく普通分娩したかったので、「子宮を手術してるなら帝王切開」と決めてかかる医師はパスでした。そうになったら、自然分娩させてくれる先生を見つけるまで、探し歩いたことでしょう。子供の成長が一時期平均より小さくて焦りましたが、その後小さいながらも順調に成長しているとのことで、きっと私の願いを察して、自然に生まれられるよう小さく育ててくれたのだと思います。

斎藤先生、「広尾」の皆さん、本当にありがとうございました。

私の体験談は一旦ここで終わります。無事出産をおえたら、また改めてご報告したいと思います。



摘出物



	術前 (pre ope)	術後 (post ope)
赤血球 (RBC)	452	454
血色素 (Hb) (g/dl)	13.7	13.8
ヘマトクリット (Ht)	40.3	41.1
CA-125	90	10
備考	術後妊娠出産	

## 「夫の心強いサポートで手術に踏み切れました。」

吉田幸恵（42才）

今、私が毎日をハツラツと元気に過ごしているのは、第一に夫のお陰です。夫の後押しが無くては、「広尾メディカルクリニック」を知る事も、斎藤先生とお会いする事ありませんでした。「広尾」で手術を受ける決心も、全て、夫無くてはあり得ませんでした。

私は10代の頃から生理不順で生理痛があり、体質なので仕方が無いと思っていました。1979年、北海道で夫と知り合い結婚し、長女を身ごもりましたが、定期検診で「心音が聞こえない。」と診断され、ビックリし、すぐに夫に知らせました。「違う病院でも同じ事を言われたら、諦めよう。」という夫の言葉に励まされ、産婦人科では定評のあった病院を訪れました。検査の結果、子供は無事育っており、無事出産。2年後の2人目は何の問題も無く育ち、出産。そして10年後の東京で、待望の3人目を身ごもりました。

**流産とともに発見された筋腫**

転勤族の夫といっしょに東京に転勤になったのは1988年のことでした。子宮ガン検査を受けたいし、生理不順の治療もしたかったので婦人科を探していたら、友人がO病院を紹介してくれて、婦人科はそちらでお世話になっていました。

欲しくてたまらなかった3人目の子供は、残念ながら流産してしまいました。その時の検査で、コブシ大の筋腫があると分かり、手術にはまだ早いと判断され、様子を見ることになりました。ホルモン療法も勧められましたが、元々クスリ嫌いですし体への影響も恐くて、お断りしました。

その間、生理のたびに激痛とドボドボと塊が出る程の大量出血、平常時でも軽い運動後に起こる、差し込むような腹痛などに悩まされ、年老いた両親の事など家庭の事情も重なって、かなりの情緒不安定に陥っていました。しかも生理中はかなり不機嫌になって、私を気遣ってくれる夫の言葉さえうっとおしく、イライラしたものでした。

P T Aの役員などをやっていた頃は、万一、役員会などと生理日がかち合ったら、皆さんにご迷惑をかけてしまうのはわかりきっていましたが、なんとか生理日避けるよう、あれこれと苦労もしました。筋腫と診断されて、以前から辛かった生理が更に辛く、情緒不安定と体調の悪さが普段の生活にも少しずつ影を落とすようになった頃、子宮は、洋服の上からでもお腹を押さえると、ゴリゴリと固く手に触れるくらい大きくなり、病院でもそろそろ手術したほうが良いと言われました。私の周囲にも肉親を含めて筋腫で子宮を摘出した人はいます。漠然と『女性なら仕方ないかなあ』なんて考えていました。

**筋腫だとばかり思っていたのに**

迷いつつも手術を決心し、術前のMRI検査を受けたら、担当の先生が「あなたのは筋腫じゃない、腺筋症だ。」と驚いていらして、今の今まで筋腫としか思っていなかったのに、いきなり「腺筋症」という聞いた事のない病名を告げられ、頭の中は真っ白。先生は色々説明をしてくださったようでしたが、何一つ覚えておらず、やっとのことで「腺筋症」だけを頭に入れて家に帰り夫に話しました。

それからの夫の行動は迅速でした。インターネットで「腺筋症」を調べ上げ、「広尾メディカルクリニック」を見つけ、ホームページを全てプリントして私に見せてくれました。すでにO病院での手術日も決まり、あと1ヶ月足らずで手術だという時期で、私は手術への決心（あきらめ）と不安の間を揺れ動いていました。

O病院の先生は、分かりやすく、お腹の中の状況と手術の話をして下さったのですが、「MRIで見える限りでは子宮と腸の癒着が起こっている可能性が高いので、その処置が必要。その際、かなり出血するので輸血も必要。子宮の大きさから見てかなり大きく切開しなくてはならない。」などなど私にはショックな事ばかり。こんな状況だったので、「広尾」の資料を見せられても、私はかなり疑っていましたが、またしても夫が「とにかく診察を受けて、この先生もダメだって言ったら諦めて、Oで手術しよう。」と私を説得し、2人して、というより夫に連れられて「広尾メディカルクリニック」へ。1998年の暮れの事でした。

診察の後、斎藤先生は「かなりひどい。でもこれなら子宮を残して直せるよ。」とおっしゃいました。夫は即座に「この先生にお願いしよう。」と思っただけで、手術の話は勧めていたが、当の私はまだ半信半疑。でも、「癒着してるけど、大丈夫だよ。」という先生の一言に、癒着を剥がすイメージが恐ろしくて仕方なかった私はすぐ安心して、だんだん斎藤先生にお任せしよう、という気持ちになっていきました。

また、斎藤先生は、私の腺筋症大きさに「子供が二人もいるなんて、奇跡だよ。」とおっしゃいました。よく考えたら6年前の流産以外にも流産の経験はあります。それも腺筋症のせいだったのかもしれませんが。腺筋症は不妊の重大な原因だと知ったのもこの時でした。

## 「広尾」での手術を応援して下さったO病院の先生

「広尾メディカルクリニック」での手術を決心し、問題はO病院に何と言うか、でした。担当の先生は信頼していますし、長いお付き合いをお願いしたい方です。その先生への後ろめたさを感じていました。「夫の知人が紹介してくれた」と苦しい言い訳をして、「広尾」で手術を受ける事を告げました。

O病院の先生は嫌な顔をすることで、MRIのコピーを手配していただき、斎藤先生宛にこれまでの経過なども書面にまとめて下さいました。「手術、頑張ってきてね。」と励まされた時には涙がこぼれそうでした。この先生の励ましにも後押しされ、「広尾」での手術に臨みました。

## カラダもココロも晴れ晴れと・・・

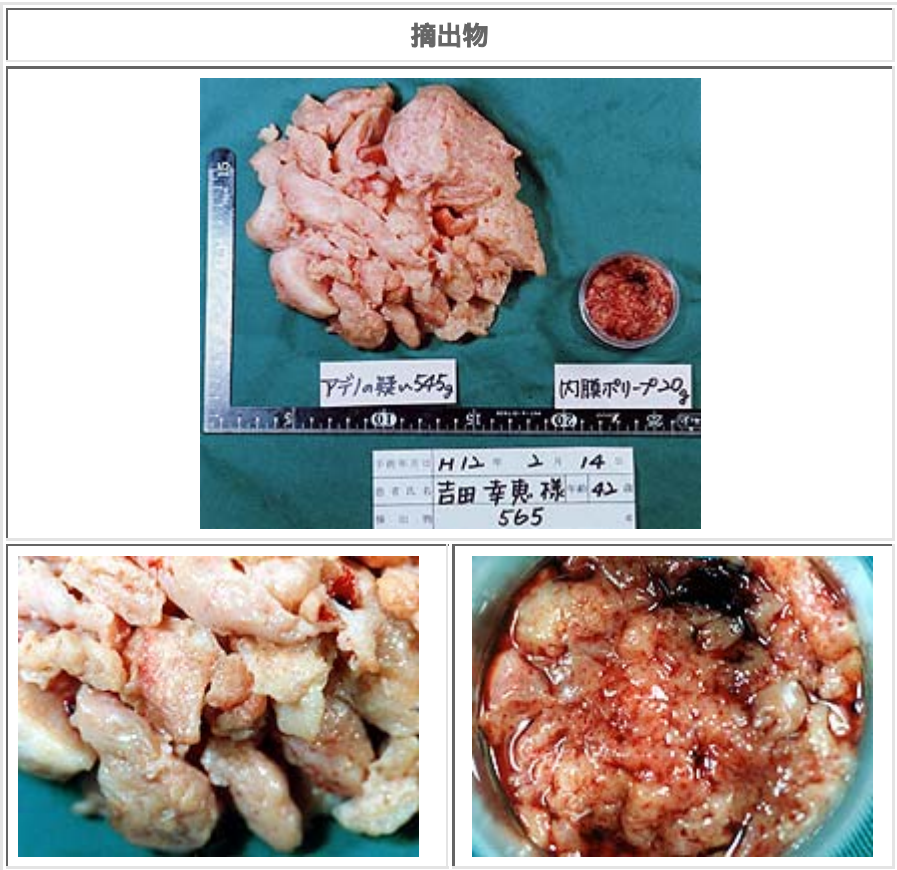
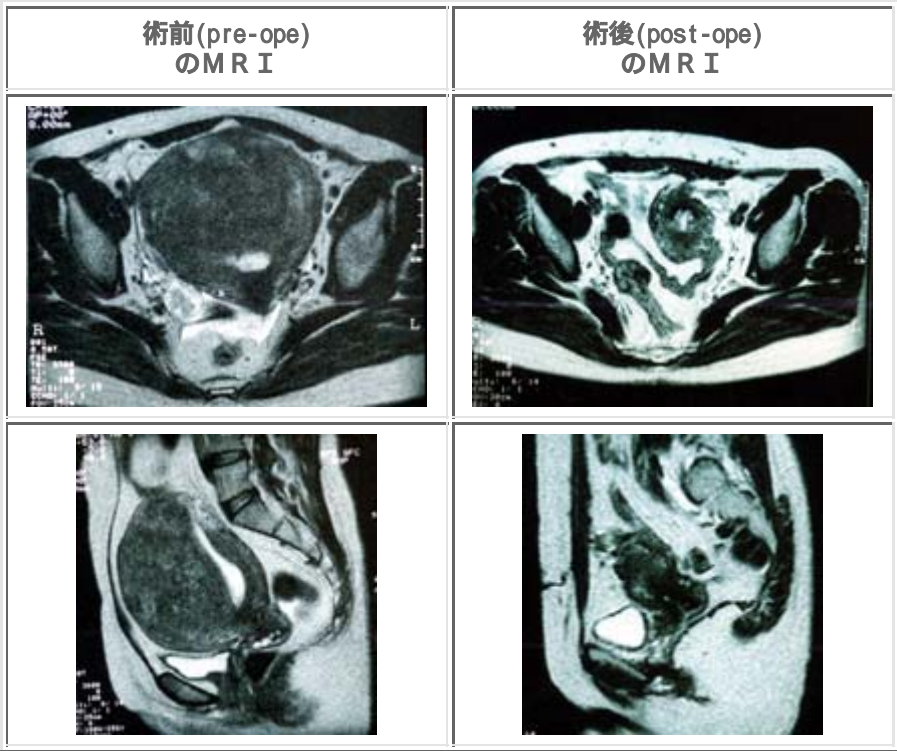
術後の経過は順調でしたが、傷が痛くて他の方のようになかなかスタスタと歩けません。私が一番年長だから？と思っているところに、斎藤先生から「年寄りには寝てないで歩かないと！」と激励(?)され、とにかく土曜日の退院までに動けるようにと、必死でした。

保険診療では下腹部からヘソを迂回して胃の下辺りまで縦に切開すると説明されていた傷が、下腹部の本当に下のほうを、横に10センチ程切っただけで済みました。年齢問わず女性なら、やはり傷は小さい方がいいでしょう。それも心を軽くしてくれました。傷は痛かったけど、体への負担は軽かったのだらうと思います。入院中は特に問題もなく、夫は毎日お見舞いに来てくれて幸せでしたし、病院らしからぬ個室での入院生活は、あっという間に過ぎました。

術後、あんなに苦しんだ生理痛はどこかに行ってしまう、ドボドボと出ていた塊も全く無くなり、「こんなに少しでいいの？」という位の出血量になりました。生理中でも普段と全く同じ気持ちで同じ生活を送れます。手離せなかった鎮痛剤も、術後は1粒も口にしません。クスリはなるべく飲まないに越した事はありませんから・・・。

体も軽く、イキイキと毎日を送っています。カラダはもちろん、ココロも晴れ晴れと軽やかになりました。斎藤先生には本当に心から感謝しています。私を支えてくれた夫にも、O病院の先生にも。

どうか、斎藤先生には、いつまでもお元気で、同じように苦しむ女性を救ってくださるよう、願ってやみません。



	術前 (pre ope)	術後 (post ope)
赤血球 (RBC)	442	448
血色素 (Hb) (g/dl)	12.3	14.2
ヘマトクリット (Ht)	37.2	42.9
CA-125	240	14
備考	3人出産 子宮腺筋症 内膜ポリープ 術前Hb6 ホルモン治療を続けていた。	

## 「子宮を残すのは誰のためでもなく自分のためなのです。」

遠山和美（36才）

**変則的な家庭環境**

私は、20歳で結婚し、21歳と23歳で長女・長男を授かりましたが、数年後離婚をすることになりました。親権を取れなかった私は、泣く泣く2人の子供を夫に託しましたが、当時小学校1年生と幼稚園生だった子供達の事を思うと母親として側にいてあげられない自分が情けなく、子供に対し、申し訳無い気持ちで一杯でした。

離婚後、お互い新しい人生に向け歩んでいきましたが、時々元・夫から夜になるとかかって来る電話での一言が私を苦しめていました。「子供達の母親なのに……。」本当は、ずっと子供達と一緒に暮らしたいと思っていた私でしたので、母親として子供達のそばで、出来る事をして行こうと決心をし、元・夫の家での同居生活が始まりました。平成5年、29歳の春でした。

**いきなりの手術宣告**

同居したとはいえ、戸籍上、元・夫は他人です。私自身の将来に向け、収入も得なければなりません。子供達と一緒にいる幸せとは逆に、私自身の将来に関しては不安を感じていました。同居と同時に、安定した正社員の職を捜しました。

学生時代に勉強した簿記の資格では通用しないことを知り、専門学校に通い、就職する為に簿記の検定試験を再取得し、税理士事務所に勤務することが出来ました。結婚前、2年弱しか働いた経験の無い私の第二の人生が、29歳の冬スタートしました。

仕事は内勤の他に、関与しているお客様の会社・自宅を訪問します。毎月繁忙期になると、夜遅くなる事もあります。子供がいるからと甘えてはいられません。仕事の上では新入社員と同じです。当時は、子供達にも淋しい思いをさせたと後悔していますが、私自身は、この子供がいたから頑張る事が出来たと感謝しています。

平成5年のある日、お産をした病院で、「5センチの子宮筋腫がありますね。すぐ手術をしないといけません。」と言われました。私が高校3年の頃に母も筋腫の手術で入院をした経験があり、大変さは知っていたので、「今、仕事を始めたばかりのこの時期に、手術をして入院なんてとんでもない！」と正直思いました。しかも当時、私を指導して下さっていた方が、翌年4月から研修に行かれる為、その方の仕事を全て引き継ぐことが決まっていました。

“他の病院にも行って意見を聞いてみよう！”と行った、2件目の個人病院では「貧血等の諸自覚症状も無く、現在子供さんがいらっしゃるんですが、まだお若いし、いつまたどんな出会いがあるとも限りませんからね。その時、後悔をしないように。」と言って頂き、手術は見送りになりました。当時29歳だった私は、もう出会いなんて無いし、手術をしないといけないのであればして欲しいと内心思っていました。でも、今思えば、この先生の配慮があったお陰で、大事な子宮を失わずに済んだ訳ですから、今はとても感謝しています。

その後、私の病気を心配した方々から、いくつか病院を紹介していただき診察を受けましたが、特に自覚症状も無い私に言われることは、いつも同じでした。「自分が自覚症状を感じた時に、手術をする・しないを判断して決めて下さい。」私は、それでも医者？と疑問を持ちました。しかし医者がそう言う訳だし、まだいいのだろうな〜と思い、病気の事を忘れ、仕事に打ち込んでいました。

石の上にも3年！を目標に働き、私も33歳になっていました。仕事で知り合った方から「体力作りも大事だよ！」と誘われて行ったエアロビクスで自分の体の不調を感じました。1時間のレッスン中、水分補給を兼ねた休憩がありますが、必ずトイレに行かないと後半のレッスンを継続出来ないのです。それは日に日に強くなり、周りの方々は美味しそうに水分を取っているのに、私は口にする事も出来ず、逆に仕事でも水分制限を余儀なくされていきました。



常に膀胱を圧迫されている感じがして、水分制限をしているにも係らず、1日に何度もトイレに行くようになりました。客先を巡回する仕事でしたので、外出する度にトイレの場所の確認が習慣になり、それは他人の眼から見ても異常だったと思います。私と頻尿との戦いの始まりでした。

## 広尾メディカルクリニックとの出会い

生理開始翌日の出血の量は以前より多かったです。頻尿と同じく現れた症状がありました。生理開始当日の腹部の激痛です。朝生まれれば午後・午後生まれれば当日夜と、生理が始まってしばらくすると腹部を抱えるほどの激痛が始まります。

朝に生理が始まった場合は、午後には働ける状態ではなくなるのですが、関与先との予定が入っている為、お休みも出来ない状態でした。夜は、横になり休んでいても痛さで眠れず、どうして??と不安な日々を過ごしていました。

平成11年9月、関与先の奥様が、ガンの為30代の若さで亡くなったという話を聞き、仕事の忙しさを理由にご無沙汰していた婦人科へ行きました。仕事を通じて紹介して頂いた先生で、最近独立された若いドクターでした。最新医療で私を救ってくれるかもしれない。そんな甘い期待を見事にこの先生は裏切ってくれました。

筋腫は10センチ程で、胎児の頭位に、大きくなっているの、手術をした方が良いと言われ、子供が二人いるのを理由に、全摘を勧められました。この時の私は、以前と違い“絶対子宮を失いたくない!”と思っていましたから、余計にショックで、病院の待合室で、一人涙を浮かべて座っていました。それを見ていた看護婦さんが声をかけてくれました。「ショックだったの?」「はい・・・」「でも、症状が重くなった理由がわかって良かったと思わなきゃ。」「・・・」無言の返事しか出来ませんでした。

私が手術を拒んだため、ホルモン療法(注射)で筋腫を小さくしようという方針に変わり、その準備の間待合室で待っていました。再び先生と話を為す為に診察室へ入ったときに思わず尋ねていました。「先生は、子供がいる・いないで手術の方法を決めるのですか?」他にもドクターに対して、かなり失礼な質問もしたような気がしますが、私には納得が行きませんでした。

ホルモン治療を拒否し「筋腫だけ取れないのでしょうか?」と、再度質問をしましたが、全部子宮を取ると、一部取る手術とでは手術の大変さも違うし、出血等も多くなり輸血も必要等々、私の願いは全く聞き入れてもらえませんでした。病院からの帰り、ショックと悔しさで涙が止まりませんでした。今、こうしていても、当時の屈辱とも言える医者言葉の数々を思い出すと涙がこぼれてきます。

同じ頃、TVで病気と闘って克服された方の話を聞きました。その方は担当の医者言葉に納得が行かず、自分を助けてくれる医者が必ずどこかにいるはず!との思いから、友人・知人等を通じて探し、ある医者との出会いがあり、今助かった自分がある、と話していたのを思い出しました。私も、同じ気持ちでした。“私を、助けてくれる医者が必ずどこかにいるはず!”でも私には、医者と縁のある知人は回りにおりませんでした。どうしたらいいのだろう?職場で毎日使っていたパソコン。そうだ!インターネットで探してみよう!検索欄に“子宮筋腫”と打ち、そこから、ネット検索の旅が始まりました。

病状等の説明・病院の紹介等あり、“インターネットって便利なのだなあ~”と、その時初めて思った私がいました。その中で出会った病院。それが「広尾メディカルクリニック」でした。

## 初診から手術まで

先生の臓器・子宮に対しての言葉を読んでいるうちに、私が捜していた医者に出会えた気がしました。受診してみたい！近くだったら、すぐにでも飛んで行きたい気分でした。しかし、平日に休暇を頂いて飛行機で行かないといけなくらい遠い病院だったのです。

誰に相談も出来ず、一人で“どうしよう？”と悩んでいました。でも他に医者は知らないし、いずれ手術をしないといけなくなる事を考えると、今、広尾メディカルクリニックの斎藤先生に診て頂けなかったら、後悔すると思いました。11月中旬に、思い切って広尾メディカルクリニックに電話を入れました。

診察をしてもらうには、仕事の休暇願、MRIの検査予約、航空券、横浜での宿泊先等の予約が全て整わないとなりません。1日でも早く受診をしたかった為、初めての電話は、航空券を手配した旅行会社からかけました。パック旅行で行くため、飛行機・宿泊・病院の検査時間等、すべてを調整しなくてはなりませんでした。何度も日程調整の電話をかけましたが、優しく対応をして頂き、感謝の気持ちで一杯でした。まだ病院にも行ってないのに、半分気持ちが軽くなっていました。

平成11年11月19日 金曜日。誰にも告げず、一人で東京行きの飛行機に乗りました。佐々木病院でのMRI検査。結果を持ち「広尾」へ。今思うと、初めての場所に良く一人で行けたものだと思います。それだけ、必死だったのだと思います。

MRIの画像を見せて頂き、先生の説明で、私の目にも子宮とその周りにある筋腫がはっきりとわかりました。「こんなに大きくなっているのですか？」数字で何センチと言われてもピンとこなかった私は、改めてMRI画像の凄さを感じました。先生の「大丈夫！」の言葉に涙を流しながら“ああ～来て良かった！”としみじみ思いました。今までと全く違う、明確な診察と自信満々の先生の言葉に感動すら覚えました。その後、広尾クリニックで手術体験をされた方のレポートが書かれた本「子宮をのこしたいー10人の選択ー」を読んで、改めて斎藤先生の素晴らしさを感じました。

診察後、希望の光が見えた私は、「ここで、手術をします。一番早く出来る日はいつですか？」と質問をしていました。「平成12年4月3日(月)ですよ。」早くても約4ヶ月待ちに驚きましたが、手術までの間、症状は良くなるなくても、もうすぐこの痛みからも開放されるのだ！という希望に満ちた嬉しさの方が大きかったと思います。

2Fで手術についての事務的なお話を伺いましたが、今更誰に相談をするのでもなく自分自身がどうしたいか？でしたので、手術費用には、今まで子育てをしながら働き、将来の為に・・・と貯めた貯金を充てる事にしました。

仕事をお持ちの方は皆さんそうでしょうが、私も職場へ病気の・を話し、休暇願を出しました。その間、私の担当先を事務所の男性方に割り振って協力してもらわなくてはなりません。年配の上司は、「体が悪い時はお互い様なのだから、遠慮する事はない。」と言ってくださいましたが、一時的とは言え、仕事量が増える事に納得のいかない方々から理解を得るのが難しく、思い切って確定申告修了後の3月末で退職をする事を決心しました。その方が、仕事も真剣に引き受けてくれるだろうし、彼らも自分の関与先になれば根性を入れて面倒をみてくれるだろうと、判断をしたからです。

3月になり、思い切って一週間休みをもらい持病の手術も受け、退職まで残り10日間は、こんなに長時間働いた事は無いと思うほど仕事をし、31日・夜遅く最後の仕事を片付けて帰り、翌日4月1日・子供達と手術に立ち会ってくれる母の4人で東京に向かいました。

1日・2日は、母と子供達を連れて横浜・鎌倉・江ノ島を観光しました。手術の事も忘れ、久しぶりに家族でゆっくりした気分を味わえました。3人からお守りをもらい、「手術を乗り越え元気になるからね！」と誓い、手術当日の朝を迎えました。

## 手術当日・入院生活

4月3日8時半。病院へ4人で行きました。病院らしくない待合室。病室は自分の部屋みたいな温かみのあるお部屋で、母もびっくりしていました。ペンションにでもお泊りに来た感じでした。病室で着替えて術前の準備が始まり、手術室に入ってから麻酔をしてもらい、ふと気が付くと手術の真っ最中でした。

好奇心旺盛な私は、手術が終わるまで目を開け、貴重な経験をさせてもらいました。術後何が大変だったかと言えば、喉が渇いて仕方が無いのに水分を補給出来ない事でした。母、子供達の支えもあり、無事に手術当日を過ごせました。

翌4日。もうすぐ子供達の学校も始まるので、3人には先に帰ってもらいました。1人で寂しくないだろうか？と少し不安でしたが、残り数日間、その心配は無用でした。ベッドの上で起き上がり方を学び、歯磨きから私のリハビリは始まりました。初めて手術を経験した私には、どうして月曜日に手術をしたばかりで土曜日に帰る事が出来るのか、不思議でした。

「えっ？もう歩くんですか？」おそろおそろ、昨日手術をした2人の方々の部屋まで、看護婦さんと共に点滴スタンドを押しながら、ゆっくり歩いてご挨拶に行きました。私より後に手術を受けた方々には、「えっ？もう歩けるの？」と言われ、言われた私も驚いています。リハビリには歩く事が一番だと言われ、夕食後は廊下を歩いたり、階段の上り下りをしたりが日課になりました。飛行機に乗って帰らないといけないうし、がんばらなくては！と意欲も湧いて来ました。

病院の食事とは思えない毎食のご飯も楽しみでしたし、看護婦さんの面倒見の良さも私を感動させてくれた事のひとつでした。

金曜日の午後。患者同士、先生を囲んでのお茶会。外はちょうど桜が満開で春のさわやかな風が、優しく“元気になってよかったわね”と語りかけてきているようでした。明日は、帰る日。この日を目標に毎晩歩いていたのに、このままずっとこの病院にいたいなあ～と思うようにさえなっていました。そのくらい、とても居心地が良かったのです。

土曜日、退院日。斎藤先生は最後まで、私達患者一人一人が無事に帰るまで責任を持って接して下さいました。前日にいただいた、手術、入院記録。ここまでして下さいさる先生にはお目にかかった事はありませんでした。これまた、感動しました。嬉しいはずの退院日、羽田から離陸する時に、「広尾」で過ごした数日間を振り返り涙がこぼれました。もちろん嬉し涙です。

## 退院後の人生

わずか1週間でしたが、入院生活を快適に過ごし、自宅での生活が始まりました。しかし、3・4日後急に胃の痛みを覚え、地元の胃腸科に入院してしまいました。急に食べ過ぎてしまったのでしょうか？3日間の絶食を言われ、また、入院生活をしてしまいました。こちらの方が「広尾」より辛かったかしれません。慌しく過ごしてきた緊張の糸が、プチンと切れたようでした。

前月までの疲れも出たのかもしれませんが。入院患者同士、私の体験談を話をする機会もありました。みなさん驚かれる方もいますが、こうして生き証人がいる訳ですから“本当によかったわね”と言って下さいます。入院後に迎えた第1回目の生理期間。“えっ？これだけ？”本当に正直な感想でした。今まで、経験してきた出血量・腹部の激痛が嘘のように解消されていたのです。“これが正常なのだ！”と得心するまで“不思議だなあ～！”と毎月のように感じていました。術後1年経過し、全く違う人生を歩んでいると思います。

出会いによって人は変わると職場の上司にいつも言われていました。実感としてあまり感じることはありませんでしたが、今は声を大にして言えます。“私は、斎藤先生と出会えて変わった！”

内面的にも、外面的にも。後ろ向きに考えていた自分の人生を、もう一度、明るく未来に向けて歩いて行こう！と思えるようになりました。術前の頻尿・腹部の激痛・生理初日の出血量の多さ、全て改善されました。少しづつですが、走ることも出来るようになりました。

何よりも、女性にとって大切な子宮を守れた事。病気等でどうしても・・とまらない限り、絶対大切に守るべきだと思います。現場の医療従事者もそう考えて欲しいと思います。子宮は、子供を産む為だけの臓器では無いこと。医者の安易な一言で、傷ついている方々がたくさんいらっしゃる事を考えて欲しいと思います。

私は、心が健康でなくては体も健康にならない事を、再確認しました。大袈裟でしょうが、同じ病気で悩んでいらっしゃる方々を一人でも多く救ってあげたいと思うようになりました。

## 最後に・・

今、子宮を残せて良かった、と、つくづく感じています。斎藤先生、看護婦の皆さん、手術のスタッフの方々、本当にありがとうございました。

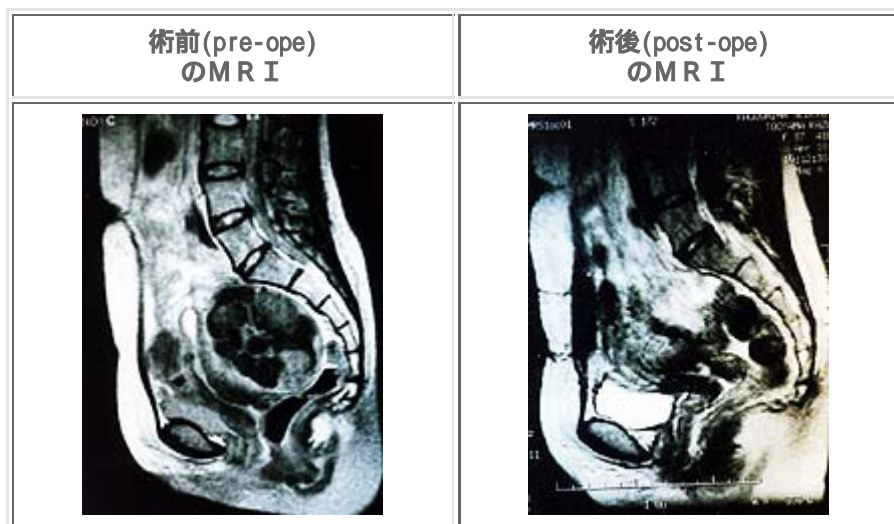
余談ですが、「広尾」で診察を受け手術まで踏み切る女性は、みんな斎藤先生に惚れちゃうかもしれませんね。医師としてはもちろん、素晴らしいの一言です。キッパリとした診断、治療に対する自信、そしてそれを実証する手術の腕、患者さんに対する優しさ・・・。「一生現役でいたい！」という斎藤先生の姿勢にも、とても感動致しました。どうかお体にだけは充分お気をつけて、がんばって頂きたいと思っています。

先日も、術後1年振りに病院を訪れましたが、懐かしい場所に帰ってきた感じが致しました。今から手術を受けられる方々が、一日でも早く元気になれることを祈っています。そして、体験談を読んだけど迷っていらっしゃる方、これもひとつの縁ですから、思い切って予約の電話を入れてみてはどうですか？

あなたの体を守ってあげられるのは、あなた自身なのですから！まずは、決心しましょう！

最後に、手術後、私の今後の人生を変える大きな出来事がありました。それは、将来を共に歩んで行きたいと思える人生のパートナーに出会えた事です。病気が治った事で、心も元気になったのでしょね。おじいちゃん・おばあちゃんになっても手をつないで散歩をしたいネ！と、2人で話をしています。諦めていた幸せを手に出れるのも、斎藤先生との出会いがあったからと深く感謝しております。

さぁ～！病気を克服して元気になりましょう！そして幸せになりましょう！誰のためでもなく、自分の為に。



摘出物



	術前 (pre ope)	術後 (post ope)
赤血球 (RBC)	521	542
血色素 (Hb) (g/dl)	13.2	14
ヘマトクリット (Ht)	41.0	42.0
備考	摘出物： 筋腫 440g 内膜ポリープ 0.1g	

## 「誰のためでもなく、自分の人生のために・女性であるために」

I . T . ( 3 4 才 )

私が「広尾メディカルクリニック」で手術を受けたのは、自分の辛い症状を「子宮を摘出せずに」治療したかったからに他なりません。インターネットを駆使して外国の関連サイトや病院・治療のサイトも調べ上げましたが、私の病気を「子宮を残して」治療できるのは広尾メディカルクリニックの斎藤先生だけでした。

**仕事の充実感の影に・・・**

今の会社に就職したのが8年ほど前。入社当時は全く元気に働けていました。責任のある仕事を任されるようになると仕事がどんどん面白くなり、外資系企業なので海外出張も少なくなく、「働く者」として、本当に充実していました。その充実感に「生理痛」が影を落とすようになってきたのは27歳頃からです。

最初は薬で痛みを抑えて、何とか働けていましたが、痛みはどんどんひどくなり、28歳になる頃には必ず生理休暇を取らなくてはならない痛みになっていました。横にもなって休む事もできない激痛。四つん這いになって痛み悶えながら、部屋をノソノソと動き回る・・・ノソノソというとノンビリした痛みに思われるかもしれませんが、動けないのにじっとしてられない、本当に七転八倒の痛みでした。

体験談でもよく拝見しますが、市販の鎮痛剤の効果がだんだんと薄れていくのです。指示されている量では全然痛みが治まりません。3錠のところを4錠5錠と増えて行き、次の服用までに6時間以上空けなくてはならないところを2～3時間おきに服用したり・・・。

私はたまたま、海外出張の時に、私の生理痛にはバツグンに効果のある鎮痛剤を発見しました。定期的に海外に行けるワケではないので、出張のたびにその薬を大量に買い込んでおきます。この鎮痛剤が無いと、私は生理の痛みを耐えられない・・・私にとっては大切な大切な薬でした。ですが、この薬も他の鎮痛剤と同様、だんだんと効き目は薄れてきました。8時間おきに服用するところを4時間で服用するようになり、当然胃腸も荒れますし、生理中の気分の悪さと相まって、時々服用した薬を吐き戻したりしていました。痛みに伴い出血もエスカレート。長時間座りっぱなしの会議や客先での打合せは、本当に困りました。

ナプキンなんてとっくにグッシュヨリで、洋服の表面までベッタリ汚してしまうほどの出血。大事な会議中でも、携帯電話がかかってきたフリをして「ちょっと失礼します。」などと言いながらトイレに走る事もしばしば。いえ、走るとドバドバと出血してしまうので、フトモモで股間を圧迫しながらソロソロと歩かねばなりません。

生理中の通勤はいつもより時間がかかります。わずか30分ほど電車に乗っている間にも、2～3回途中下車してトイレに行かねばならないほど出血します。電車に揺られている間もフトモモに力を入れて、股間をぎゅ～っと圧迫します。少しでも出血しませんように・・・と祈るような思いでした。客先で大切な打合せがあるのに生理日が重なる時など、同僚に「みんなに恥かかせる事になるから・・・。」と会議を自ら辞退させてもらうこともありました。下着や洋服の替えは常に用意しておかねばならず、いつドバツと出血するか知れないので仕事にも集中できず、本当にイヤでイヤで仕方ありません。仕事に打ち込みたい私の意思とは裏腹に、そうさせてくれない自分の体が本当にもどかしく、苛立たしささえ感じていました。

こんなにひどい出血と痛みがありましたが、それでも2年前頃までは生理は1週間で終わっていました。それが変調を来したのは33歳になり、会社でのポストが上がった頃です。出血の期間が長くなり、それでも「生理は終わったな、ヤレヤレ。」と思った矢先に、ジャーーーーーッと出血があるのです。便器に跳ね散らかるほどの勢いと量の出血です。この血は何？何処から出てるの？さすがに怖いのですが、ものすごい重病を宣告されるのも怖くて、なかなか病院に足が向きません。

## 暗いお正月

29歳頃・生理痛がひどくなっていた頃の健康診断結果は「貧血」でしたが、他に所見も無かったのでほったらかしていました。2年前の健康診断では「心音に雑音が混じる。」との事で、日大の駿河台病院を紹介され、上半身のエコーをしましたが、この時は何も言われませんでした。

2000年11月の健康診断では「脾臓が腫れている可能性がある。」と言われ、所見にも書かれ、「要精検」。この時すでに生理はメチャクチャだったので「脾臓じゃなくて子宮だな・・・いよいよかな。」と思いました。いきなり婦人科へ行く勇気が無かったので、とりあえずかかりつけの内科へ。「健診で脾臓だって言われたし・・・」と、婦人科を後回しにする言い訳を自分にしながら。

内科での診察後、案の定「これは子宮だから」と婦人科を紹介されました。内科の1クッションがあったことで、ようやく婦人科へ足が向きました。12月の中旬。紹介された婦人科で診察後、全摘出か核摘出かはおっしゃいませんでしたが、即座に「これは大きい筋腫だね。摘出しましょう。」と言われました。私は生理痛や出血のひどさが改善できるなら手術も辞さないし、子宮を残してくれるなら何でも良い、と思っていましたが、その後、より詳しく調べるためのMRI検査後、「筋腫」から「腺筋症」へと診断が変わりました。

腺筋症は、今のところ子宮全摘出ししか完治させる方法は無い、と説明されました。このような説明の時に、ドクターは患者である私を見ながら・写真を指しながら話してくれるのが当たり前、と思っていたのですが、単に技師からの所見を読み上げているだけで、何だかすごくガッカリしました。

更にこの「腺筋症」と診断されたのが年も押し迫った12月29日。病院はお正月休み。治療の見通しが立たない病気をお腹に抱えて、独りドブプリと落ち込みモード。落ち込んでばかりも居られないので、インターネットで腺筋症について勉強し、治療法を探しまくった暗い暗いお正月でした。

このお正月に、「広尾メディカルクリニック」と腺筋症治療をしている病院（群馬）を発見しました。この時点で「広尾」が有望なのは明白でしたが、友人の若いドクターにも、「とにかく子宮を残せると言うなら、何でも試した方が良い。」と言われていたので、どちらも受診してみる事にしました。年が明けて、群馬の病院「広尾」と連日で受診。「広尾」を後にしたのは、群馬がダメそうだったら「広尾」で即決できるように私は、とにかく仕事ができる体になれるなら何でもやる！という心持ちだったので、子宮を保存しつつ生理痛を治める治療法があるなら何でも試すつもりでいました。

群馬でのダナゾール局所注入治療も、リスクとの兼ね合いを判断した上で、受けてみるのも良いと考えていました。群馬の病院では、私の期待はアッサリと裏切られました。腺筋症が大きすぎて対応できないようなのです。しかも行くたびに同じ事を繰り返すというドクターには、少々辟易してしまいました。ここのドクターは私のMRIを見て、医師の教科書のような分厚い本を取り出し、おもむろに「悪性リンパ腫・悪性肉腫」の写真を見せ、「ほら、これとソックリだ。あなたのは悪性腫瘍だ。」と決め付けました。

最初は「そうなのかな？」くらいは思いましたが、子宮体癌検査も受け、悪性ではないと判明した後も、「悪性だ。検査だ。」と同じ事を繰り返すのです。腺筋症の患者さんが藁にもすがる思いで、大勢集まって来ています。そんな状況で前回の診察を覚えているとは言いませんが、前回何をしたかくらいはカルテに書き、今回の診察はそれを見てから話をしてくれ！という感じです。「悪性だ！」と言われるたびに、「検査は受けて、悪性ではありませんでした。」と説明しなくてはなりません。今思うとですが、

- 私の腺筋症はここでは治療できない。
- だけど治療できる！と謳っている手前、治療できないとは口が裂けても言いたくない。
- 悪性腫瘍ということにして摘出してしまおうという考えだったのかな？

と、ふと思ってしまいました。

## 「広尾メディカルクリニック」の初診から手術まで

斎藤先生の持つオーラは、私の尊敬する会社の社長やディレクターのそれと同じだったので、「ああ、やっぱり」と感じました。偉業を成す人って空気が違います。斎藤先生は言葉こそ少ないのですが、私の子宮を救える」と断言してくださいました。私にはそれで充分でした。また、MRI画像を見ながら・指しながらの説明がとても頼もしく信頼に値し、私に安心を与えてくれました。

地元の病院では、腺筋症を少しでも縮められる可能性がある事から、スプレキュアの擬似閉経療法を試す事になりました。患部が小さくなるかどうか経過を見て、手術については後から考えましょう、というお話でした。群馬の病院にも、ダナゾール治療ができないならスプレキュアが欲しいと言い、2つの病院からスプレキュアを処方してもらうようにしました。

話が前後しますが、2000年の1月に昇進して、仕事への意欲と責任感の大きさから、かなりのプレッシャーを感じつつ仕事をしていました。12月に腺筋症と分かってから、より症状が悪化したような気がして、自分への苛立ちを更に強く内包しながら、それでも「自分に負けるな！」と仕事をしていました。

スプレキュアを始める前に3週間ほどの海外出張があり、氷点下のフィンランド（本社）からロンドン経由で初夏のシドニーへ。その3週間目に生理が来てしまいました。シドニーで、皆が半袖シャツやラフなTシャツなどで初夏を満喫している中、私ひとりカシミアのコートを着込んで体の冷たさに震えていました。夏の国にいながら体が冷えて冷えて寒いのです。どう考えても異常です。今なら出血があまりにも多すぎたせい？と考えたりしますが、当時はそれどころではありませんでした。傍から見たら「夏なのにコートを脱がない妙な日本人」だったと思います。また、長旅の疲れもあってか痛みも絶頂に達し、社用でなければ救急車を呼んでいたのではないかと思います。

## 手術まで

地元と群馬の病院には、スプレキュアを入手するためだけに通いました。体に悪いと解かっていましたが、スプレキュアを止めることはできませんでした。仕事を滞りなく続けるための「必要悪」といったところです。出張が多く、定期的に通院できる生活ではありませんでしたから、2つの病院に通いセッセと通い、スプレキュアをストックしていました。

スプレキュアは、鎮痛剤と同様、私には無くてはならない薬になっていました。多少体がフワフワする感じはありましたが、他には大した副作用も無く過ごしていました。私にとっては副作用の怖さより、生理が無い事が大事でした。生理が無いというだけでこんなに仕事に打ち込める。あの忌まわしい痛みや大量の出血に悩まされずに済む。仮初めの「救いの神」といったところでしょうか。

そうこうしているうちに、スプレキュアを使っているのにもかかわらず、生理ではない出血があるようになりました。（痛みを伴っていないので生理ではなかったと思う）毎日チョコチョコ口、時にドッと不正出血があるようになり、内心、ちょっとマズイと思い始めました。この間、イギリスにいるボーイフレンドが、日本は様々な面で世界から遅れているので、海外なら治療できる病院があるかも知れないと、ロンドンの病院にかかろうと、色々調べてくれました。ですが、どこの病院やドクターも大差なく、「腺筋症は、世界的に摘出しが治療方法が無いみたい・・・」という事を感じました。

## 手術・入院

術前に、佐々木病院でCT検査を受けました。その時、半年前のMRIではまだ「下腹部」の範囲に収まっていた私の子宮が、おへそを越えて膨らんでいました。術前に、斎藤先生から「大きいので縦に切るかも知れない。」と言われていましたが、結果は横に14cmの切開でした。先生に感謝！です。

この週に手術を受けた人は、私を含めて4人で、私は最後の4番目。2番目の方の手術が思いのほか長引き、既に午後9時を過ぎていました。立会いに来てくれていた母が、帰ったものか居た方が良いのかとソワソワしていました。手術中はほとんど眠っていたのですが、時々起きては「イタイタイ・・・」と呟き、また眠るの繰り返し。先生がお腹の中をかき回しているのは感じていました。手術室には音楽がかかっていたらしいけど、全然気付かず。手術が終わったのは日付の変わった夜中でした。（先生も看護婦さんも、本当にご苦労様でした。）

夜が明けて翌日。空腹はともかく、前日から水1滴口にしていけないので、喉が渴いて渴いてたまりません。歯磨きするまで、口に湿り気を与えられないのが本当に辛かった。看護婦さんに「あと2時間で歯磨きします。」と



言われてから時間の進むのが遅い事・・・。1分1秒がとっても長く感じました。傷は・・・やはり痛かった。カラダに色々な管が入っているので、動いてはいけないのだと思い込み、姿勢を変えずにひたすら仰向けで我慢していましたが、ついに辛くてナースコール。そしてアッサリと「横向きになってもいいんですよ。」なっんだ。寝返りしていいのか。食欲は全然なし。話をするのも辛かったけど、母が朝になったら電話をよこすようにと伝言していたようで、看護婦さんに「これでどうぞ。」と電話の子機を渡されました。頑張って電話をかけ、「お母さん？あたし。じゃあね。」とそれだけ。パジャマに着替えて起き上がりました。お腹が突っ張って背筋が伸ばせないけど、立って歩けました！

水曜日。ただ寝ていても痛いだけなので、マメにトイレに行ったりお部屋のベンチに腰掛けたりしていました。後はテレビを眺め、新聞を読んで過ごしました。食欲が無いのではなく、ほんの2～3口の食事しか胃が受け付けないのだと判明しました。だからすぐにお腹が空く・・・。夜中に看護婦さんに「おねだり」しましたが、片付けちゃって食べられる物は何も無いとのこと・・・。仕方なく空きっ腹を抱えて眠りました。

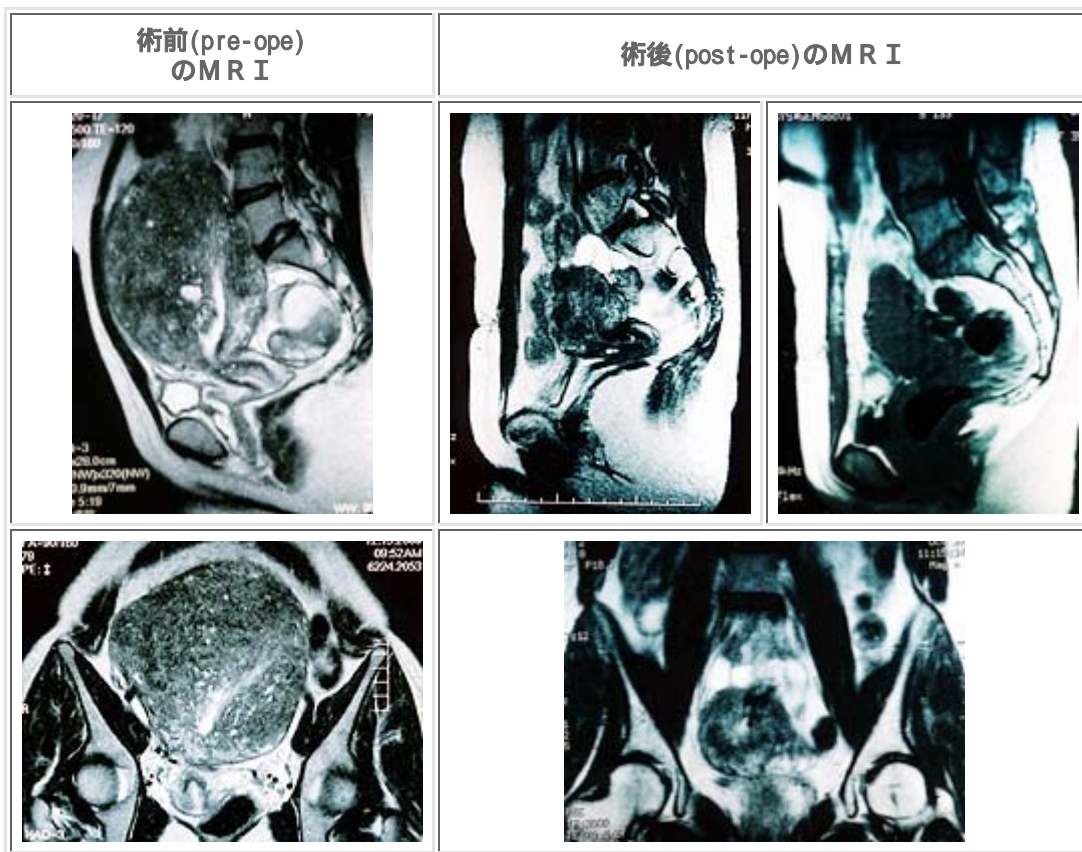
木曜日。ガスが出ました。体全体が随分楽になっています。友達もお見舞いに来てくれました。お腹の管も外されて（外す時ちょっと痛い）シャワーも浴びて、退院に向かっていくという感じ。この日は賢く、夕食の一皿を夜食用に冷蔵庫にキープ。

金曜日。お昼はお寿司で、先生と入院中の患者さんとお食事会です。その後お茶会。術後健診の患者さんもうらしてて、とても元気そう。私もそうなれるのかな・・・。期待・期待・期待。

土曜日。朝食後、抜糸をして退院準備。先生が「来週消毒にいらっしやい。」と言って下さり、嬉しかった。母と妹と甥っ子2人が車で迎えに来てくれました。名残惜しいけど帰らなきゃ。お見送りしてくれる先生と看護婦さんにお礼を言って帰路へ着きました。車が揺れるたび、お腹に響いて傷が痛い・・・。おまけに乗り物酔いなどめったにしない私が車酔いをしてしまいました。普通だったらここで吐いてしまえば楽になるんだけど、そんな事をしたらお腹の傷が・・・。今までで一番辛いドライブでした。

退院後は日に日に回復し、退院して2週間目の今、まだまだ無理はできないけれど、一人の外出も怖くなくなりました。この間、食べ物には気をつけないといけない事を、身を持って知りました。美味しそうな誘惑とこんなに元気なんだからという油断に付けこまれて、焼肉ランチを摂ったその日の夜、お肉の消化が悪かったのか下腹部に鈍痛が・・・！お腹が痛いだけでなく左足まで上がらなくなり、恐怖の一夜でした。それ以降、消化の良い食事を心がけ、胃腸に負担をかけないようにしています。

病理の結果も全て良性！本当にホッとしました。参考までに、斉藤先生からいただいたファイルの一部を抜粋します。「...子宮の両側が腹膜、付属器に強固に癒着、子宮前壁も腹間膜と癒着し非常に困難を極めた手術でした。... 腺筋症の摘出物は554g(7x7x2.5cm 120g他、25ヶ)、所要時間2時間10分...」あとは3ヶ月以上たったら術後健診です。お腹の中に陣取っていた子宮がどうなっているか・・・。いえそれよりも、もうすぐ来るであろう生理はどうか、すごく楽しみです。



	術前(pre ope)	術後(post ope)
赤血球(RBC)	385	462
血色素(Hb)(g/dl)	10.1	13.2
ヘマトクリット(Ht)	30.1	41.6
CA-125	77	35
備考	子宮腺筋症	

## 「"広尾"での治療は、心までも前向きに明るくしてくれました。」

丸山直美（33才）

私は子供が好きで、結婚したらすぐにでも赤ちゃんができるといいなあ、と思っていました。腺筋症があり生理痛もひどく、結婚したいと思った時、子供は授かるのだろうか？とかなり悩んだ時期もありました。この時は、腺筋症が結婚後に、こんなにも災いをもたらすとは思っていませんでした。3交替勤務の看護婦として働き、結婚4年の間に2度も流産を経験し、肉体的にも精神的にもかなりボロボロの状態でした。最後の望みを賭けて「広尾」での手術を決意した時、当時地元でかかっていた医師からの言葉は「そんなにまでして子供が欲しいの？」という、人として到底信じられないようなものでした・・・。

**看護婦としての激務の中で**

私は地元の国立病院で看護婦をしており、生活はかなり不規則でした。21歳で高等看護学校を卒業後、すぐに看護婦として働き始めましたが、23歳を過ぎる頃から生理痛を感じるようになり、鎮痛剤を服用するようになりました。生理が始まると、私自身が何も言わなくても、顔色の悪さと辛そうな動きで職場の仲間にはすぐに分かるようになっていました。「休んでいれば良いのに」と言ってくれる人も居ましたが、病気やケガをした方達が相手の仕事なのでそうもしてられません。そのうち出血も多くなり、白衣を汚してしまうのではないかといつも不安でした。

それに、25歳頃から鎮痛剤がだんだんと効かなくなってきました。市販の薬では全然痛みが治まらず、自分の病院で少し強めの薬を処方してもらい服用していましたが、それも効かなくなってきた、体に悪い！と知りつつ、自分は看護婦なのにこんな事をして・・・と思いつつ、服用時間を6時間以上空けなくてはならない薬を3時間おきに服用したり、指定量の倍以上服用したりと、痛みを治めるために随分と「禁じ手」を使ってしまいました。

生理中の出血はかなりひどく、塊が出てきたり、そろそろ終わっても良い後半頃にドッ！と出血したり（もちろん塊もあります。）、出血が20日くらい続いたり、今考えると恐ろしい状態でした。また、水道からジャーワーッと水が出るように出血する時もあり、いずれの場合も、ものすごい激痛を伴ったものでした。いつもナブキンは夜用を手離せず、家にも病院のロッカーにもナブキンを常備していないと安心できませんでした。

**病院難民・ホルモン療法を繰り返した日々**

26歳頃、いよいよダメだと思い婦人科へ。1件目の病院。「腺筋症がある。」と診断され、まだ独身だという事と子供が欲しいという私の意向で、ホルモン療法を2クール試しました。ホルモン療法中は子宮が小さくなるのに、止めた途端大きくなってしまいます。

ここの医師からは「なるべく早く結婚して妊娠した方がいいんだけど・・・」と言われ、結婚の予定も無い私にどうしろというのか？と思いながらホルモン療法で治療していました。2クール後の生理で10日目くらいの時に深夜勤務の最中、突然トイレで大出血してしまいました。手の平くらいの塊が出て、その後、水道からジャーワーッと出るような出血。血の気がサーッと引くのが分かり、トイレが真っ赤の状態でした。

「別の病院に行ってみたら？」と同僚の看護婦からの勧めもあり、他の病院に行けばもっと違う治療があるかもと考え、次の病院へ行ってみました。2件目の病院でも同じく「腺筋症」と診断されました。ここでも1件目と同じく、ホルモン療法を薦められ、リュープリンを使ったホルモン療法を試みました。

本来は半年が1クールである療法なのに1年も注射を続けました。まだこの当時は、ホルモン療法で自分の病気が治ると信じていたので、治療を続けていました。さすがに通常の倍の期間も続けられる治療には不安が生じましたが、生理痛や出血から開放され、副作用である更年期症状は有るものの、普通の生活が送れるという安易な考えで治療を続けていました。

治療中に結婚が決まり、医師からもなるべく早く妊娠するよう勧められ、結婚3ヶ月目に妊娠しましたが、8週目で流産してしまいました。この時は、流産の原因はハッキリしないと言われましたが、腺筋症が原因である事

は言うまでも無く、自分を責め、主人に申し訳なくて、ただ泣いてばかりの毎日でした。それに加え、流産後の出血がなかなか治まらず、2ヶ月近く出血が続き、心も体もボロボロでした。少量ずつだった出血が急に増えてしまったのを機に、3件目の病院に行きました。

ここでは「腺筋症に加え、筋腫の疑いもある。」という診断。「腺筋症と筋腫を手術で取ってしまえば妊娠できる。」と言われたので、迷わず手術を受けました。なのに、お腹を開いて見たらあまりの腺筋症の大きさにほとんど手術できず、取れたモノといえば表面の小さな筋腫だけ。こんなのはお腹を開いて閉じただけとしか言えません。

術後、またしてもホルモン療法。その後、医師から「子宮が小さくなったので妊娠してみてください。」と言われました。出血などの様子も小康状態でしたが、ある時突然の下腹部痛。この医師に「カゼの菌が子宮に廻ったのかもしれない。大事を取って入院してはどうか？」と言われましたが、絶対に違うと思い、断って違う病院へ行きました。

4件目の病院では、多少詳しく検査をしてくれたようでした。検査の結果、子宮の筋層に出血が溜まって壊死を起こしている、血液は自然に吸収される、壊死した部分は広がる恐れは無いとの事でした。「壊死した部分は本当に広がらないのか？」かなり疑問でしたが、お腹の中は見ることができないので医師の言葉を信じるしかありません。

この4件目の病院でホルモン療法後、再度妊娠をということで、同じ事の繰り返しはかなり不安でした。生理が遅いと思い始めて「あれよあれよ」という間にお腹が硬く張って、妊娠5～6週目なのにも係わらず、5ヶ月目くらいのお腹になってしまいました。妊娠を喜ぶ間も無く又しても流産。私の体も命に係わるような、かなり危険な状態になってしまいました。

流産後、2回とも脚の静脈血栓を起こしており、ホルモン剤の副作用であると考えられるのですが、ホルモン療法を受ける際に、どの医師も副作用については何の説明もしてくれませんでしたし、この医師は「そんな副作用は無い。」と言い切りました。今時、一般向けに市販されている「薬辞典」を見れば書いてあるような事を、医師が否定するとは驚きです。

その後体調が落ち着いてから、医師に手術をして危険を覚悟でもう1度妊娠を試みるか、子供は諦めて子宮全摘出するかをそろそろ決めて欲しいと言われ、既に私は落ち込みと混乱の渦中にありました。この医師の尊敬する大学病院の教授からも「摘出か、ホルモン療法。」と言われ、一生ホルモン療法を繰り返すなんて、続けられるはずもなく、全摘しか道が無いのか、と運命に見放されたような「どん底」の気持ちでした。

## 最後の切り札

「いや、まだ可能性はある。」大学病院から帰って来た日の夜、主人が広尾メディカルクリニックのホームページを探し出してくれました。どうやら主人は以前から知っていたようです。藁をもすがる気持ちとはこの事です。「広尾」に予約を入れました。

「広尾」に行く際にMRIを持参した方が良いとの事で、4件目の病院にMRI画像を貸し出してくれるよう頼んだところ、数日たって「ご主人とお話したら渡します。」と電話で呼び出されました。「なんでかな？」と思いつつ、夕方、主人の帰りを待ってMRIを受け取りに行きました。そうしたらその医師が、「広尾」での診察を止めるよう主人を説得し始めたのです。

「そんなインターネットで調べたような、得体の知れない病院に頼るなんて、どうかしている。」「そうまでして子供が欲しいの？子供が居ると煩わしい事もあるんだよ。」「手術だったらわざわざ遠くに行かなくても、ここでできる。」

自分には病巣全てを切除できる技術は無いと言いながら何て言い草なんだろう、可能性があるのなら納得いくまで治療したい！手術しても腺筋症は絶対取り切れないし、術後はまたホルモン療法を勧める医師・あなたには私を治せないんだから余計な口出しはしないで！と、怒りで心が潰れそうでした。

今思い出しても腹立たしく思います。主人がどうか話をつけて、MRIを受け取れましたが、こんなに不愉快で腹立たしい事は後にも先にもありません。今まで面倒を見てくれた医師を悪く言いたくはありませんし、私の身を案じての事と思いたいのですが・・・。1度目の流産の後も医師(2件目)に「妊娠の練習をしたと思って次も頑張りなさい。」といわれたことも忘れられません。医師の軽はずみな言葉にも、かなり傷つきました。

そんな一悶着の後、夫婦揃って診察に行きました。ホームページで見るとような、すごい手術をこなしているとは思えないほど、ごんまりした構えの、病院らしくない病院でした。診察室のドアは開けっ放し、齋藤先生は白衣も着ておらず、夫婦揃って診察室に入る、婦人科なのに内診をしない・・・普通の病院しか知らない私には驚きの連続でした。

先生は、MRIを見た途端、「大きいねえ、でも治せるよ。」とおっしゃいました。「オレに任せておけば大丈夫だ！」と言わんばかりの自信に満ちた口調に圧倒され、また来て良かったと思いました。話をしているうちに、こんな腺筋症を持ちながら2回も妊娠した事自体が奇跡に近いと言われました。それほど不妊の原因になっているのだと。やはり退治しなくては、いくら望んでも子供は授からない。夫婦二人して、多少の不安はあるものの「ココしか無い！」と確信しました。

また、血栓の原因はホルモン療法をこんなにやっているのだから当然と言われ、結婚後、ほとんど生理が無いほど、ホルモン療法をしてしまった自分が情けなくなりました。結局ホルモン療法は治療ではなく、子宮全摘を患者に受け入れさせる手段でしかないのです。

「広尾」での手術を決心し、予約しました。色々な方の体験談で「高額な費用」とあったので、1,000万円くらいかかるのかな？とドキドキでしたが、自分たちの支払える範囲だったので、一安心でした。

## 手術・入院

2001年1月22日、手術。ちょうどホルモン療法の直後で、生理の来ないうちに手術できたので、良いタイミングでした。私は3番目予定。朝から支度をして待っているのに、時間が経つのが遅くて遅くて。待っている間は、不安と緊張から余計な事ばかり考えて、主人が食事に行くといって2時間も戻らず、些細な事でイライラしてしまいます。

いよいよ手術室に入り、1時間くらいはしっかり意識があり、お腹の中のモノを引っ張り出されている感覚がありました。手術が終われば主人は帰ってしまい、1人で頑張らなくてははいけないと思ったら、急に手術台から逃げ出したい衝動にかられたのですが、手も足も動かさず（当然ですが・・・）諦めました。汗だけで私の腺筋症と戦っている先生の姿を見たら、私も落ち着かなくては・・・と自分に言い聞かせ、そのうちに眠っていました。

手術が終わったのは20:00頃。3時間半もかかった、「広尾」の中では長い手術でした。病室に戻って主人とは少し会話を交わしました。1度目の手術では、術後、麻酔の影響でかなり暴れたようなのですが（自分では全く覚えていない）、「広尾」での術後は静かに落ち着いている様子だったので主人も少しホッとして、最終電車で地元に戻ったようです。

術後は、日を追うごとに回復していきました。翌日、初歩き。痛む傷を押さえつつ歩きました。歩かされた事に驚きましたが、歩ける自分にもっと驚きました。木曜日のシャワー。術後3日で、バンソウコウでカバーしているとは言え、シャワー浴びていいんだ・・・。考えられない回復の早さ。月曜手術・土曜日退院が納得できます。

金曜日、退院前の食事会&お茶会。昼から夕方まで喋りっぱなし。随分回復したのだと自覚できます。入院前とは打って変わって、気持ちが明るくなっています。この時齋藤先生から、「君の手術は大変だった。腸と子宮が癒着していたんだよ。滅多に緊張しないんだけど、君の場合は心臓をドキドキさせながらだったよ。ちょっと間違えば腸に傷がついて、ここでニコニコ笑ってられない状態だったんだよ。」と伺いました。それを聞いて、本当に齋藤先生に手術してもらってよかった、助かった、と言い尽くせない色々な思いが縋り交ぜになり、涙が溢れてしまいました。術後検診に来ていた方も、その話を聞いて涙ぐんでいました。

「広尾」の人たちは、何だかみんな、あったかい。看護婦として、自分もこんな病院で働けたらな、と思いました。メデイカルな事は当然ですが、患者さんの身の回りのお世話や食事の支度、メンタルな部分まで、とにかく全てに渡って自分が係わってられるというのが羨ましいと思いました。大病院の看護婦の仕事は、自分で働きながらも、何となく事務的な冷たさが払拭できませんが、「広尾」ではそういう印象は全く受けませんでした。

土曜日、主人が迎えに来てくれ、あまり傷も痛がらず歩いている私を見て、あまりに元気でビックリしたようです。退院の日は、関東地方は珍しく大雪で、齋藤先生に鶴見駅まで車で送っていただきました。帰りの新幹線の

中でも元気になれた嬉しさで、主人から「少し黙って寝たら？」と言われる位、5日間の出来事などを話し続けていました。

## 退院後

退院後、1週間は実家で甘えさせてもらいましたが、その後家事は徐々にできるようになり、1回目の手術と比べ、本当に回復の早さを実感しました。最初傷を見た時は、看護婦の私が言うのもナンですが、ビックリです。「これ、キレイになるの?」とかなり不安でしたが、少しずつキレイになりました。

術後の生理。ドキドキしました。あれれ?こんなに少ない出血?夜用のウルトラスーパーなナプキンなんてもう必要ないじゃない?あらら、こんなチョッピリなのにナプキンがもったいない、そんな驚きの連続でした。何より生理を気にせず外出できる事、夜安心してぐっすり眠れる事、痛み・出血が激減した事が嬉しくて・・・母からは、むくんでいた顔がハッキリとシャープな感じになったと言われました。そう言えばお肌も少し明るくなった感じがします。

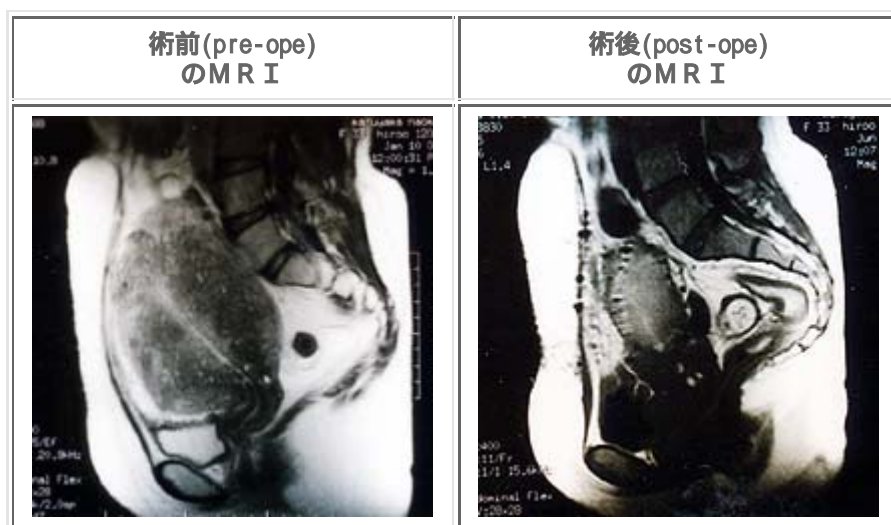
術後5ヶ月めに術後検診を受けました。あんなにホルモン療法を試みても小さくならなかった子宮が、小さくなっていて、驚きでした。そろそろ5回目の生理が来る頃です。不順はありませんが、生理期間が10日前後と長いのが気になりました。斎藤先生から、「回復段階にあり、もう少しで安定する。」との説明を受け、安心しました。もう妊娠しても大丈夫と言われ、希望が胸に溢れています。子供は授かりもの、いつ妊娠できるかわかりませんが、ホルモン療法で傷めてしまった体を少しでも回復させなくては。立派な赤ちゃんを産めるように・・・。

斎藤先生、広尾メディカルのスタッフの皆さん、色々お世話になりました。腺筋症は治らないから上手く付き合っていくしかないんだと諦めていた私に、希望を与えていただき、どちらかと言えば後ろ向きだった人生でしたが、これからは前向きに頑張れそうです。そして「広尾」を見つけてくれた主人、いつも支えてくれる両方の両親に、感謝の気持ちでいっぱいです。本当に皆さんありがとうございます。

## 諦めないで

子供が欲しくてたまらないのに授からない・授かるように子宮や卵巣を治療する術が無い、生理が辛くてたまらないのに治療方法が無いと諦めかけている方、絶対諦めないで。納得できる治療方法は必ずあると思います。

ずいぶん遠回りしましたが、何としても子供を産みたい、私はその一念で「広尾」に辿り着き、斎藤先生と巡り会え、治療する事ができました。誰が何と言おうと自分の目と耳で確かめて納得し、確信の持てる治療を受けて欲しいと思います。



摘出物



	術前 (pre ope)	術後 (post ope)
赤血球 (RBC)	418	445
血色素 (Hb) (g/dl)	13.3	13.4
ヘマトクリット (Ht)	38.3	41.6
CA-125	180	72
備考	術後 Hb6 ホルモン治療を続けていた。	

## 「人生のリセット」

佐藤真弓（33才）

ゲームで失敗し、負けそうになったら「リセット」をする子供がいます。大人は「人生にはリセットボタンはないんだぞ!」と子供を諷めます。ですが、病気でどん底の体調や気持ちを抱えて生きていた人が、病気を治癒し心身ともに元気になれば、自ずと人生はリセットされる・・・、と今の私は思います。

**生理痛は当たり前？**

私はず～っと、生理痛があるのは当たり前だと思っていました。小学校5年生頃から生理が始まりましたが、初潮から2～3年経って生理の周期が落ち着いてきた頃から、既に時々生理痛があり、というよりも痛くない生理の方が稀でした。母が頭痛持ちで鎮痛剤をよく使っていたので、鎮痛剤に対する抵抗も殆ど無く、“痛かったら鎮痛剤”でした。TVなどのCMのせい、鎮痛剤を服用する事も、出血量が多いことも、当たり前だと思っていました。妊娠・出産以降、多少は生理痛に改善が見られましたが、それでも二人目を産んでから3～4年後には、元のような痛みが現れていました。

1999年の秋頃から、日曜日になると疲れがドッと出て、起き上がるのさえ辛いような倦怠感に見舞われるようになりました。決して仕事がついのではありません。私は家業の伝統的工芸品の製造をしています。座り仕事ですから・・・。子供の面倒すら見る事ができず、何となく自分の体じゃない様な感じでした。パパからも「怠け者!」と叱られ、「私はこんなに疲れているのに!」と腹立たしく、ケンカも多くなりました。

**生理痛 + 不正出血 = 貧血 倦怠感・体調不良・情緒不安定**

生理と生理の間にも出血はありましたが、最初は排卵日頃の出血だったので、中間期出血だと思い、あまり気にしていませんでした。ですが、性交後も必ず出血しますし、それが翌日まで持ち越すことも度々でした。だんだんと生理日以外の出血が増えているので、なんとなくオカシイ?と感じ始めました。体調の悪さと相まって、生理痛は激痛で、まさに七転八倒の苦しみでした。出血量も多く、ゼリー状の塊が出る事も常でした。

2000年の年明け。始まった生理が少なくなる気配がありません。「おかしい」と思った矢先の5日目に、大量の出血と共に、血の塊が「ドカドカ」という感じで落ちてきました。TVでよく宣伝されている「ウルトラナイト」を昼間から使っていても、下着・スカートを浸み透して、ジャケットまでベッタリと汚してしまうほどの出血。自転車に乗れば鼠径部がチクチクと痛み、何が何だか分からないけど、とにかく自分の生理がひどいという事だけはハッキリ自覚するようになりました。

同年3月の生理では、ひどい腰痛と腹痛で、4日間起き上がれませんでした。この頃にはいつも疲れがひどく、立ちくらみなどもしょっちゅうでした。「いよいよオカシイ、卵巣嚢腫かも」と思い、意を決して、お産でお世話になったクリニックへ診察に行きました。血液検査と子宮頸癌検査を受けたところ、ヘモグロビン値9.4。立派な貧血です。エコーでは、素人目にもハッキリ見て取れるほどの筋腫が子宮の真中にあり、それはまん丸な蜜柑のようでした。「お産の時は、こんな筋腫は無かった。」とクリニックの先生に言われました。確かにそうかもしれません。その頃はこんなに体調も悪くなかったし・・・。積極的な治療をしたいと思い、ホルモン療法を試してみる事にしました。

4月の生理開始日から、擬閉経療法でナサニールを使いました。最初の3日間は腹痛、それからは酷い悪寒に吐き気。頭を内側から殴られているような頭痛。3時間と起き上がってられません。9日目には耐えられなくなり、先生と相談のうえ、中止しました。このとき私は、自分の更年期（閉経）を疑似体験したわけですが、あまりの体調の悪さにショックを受けました。これは全摘出などしたら、間違いなく体調を崩し、下手をしたら廃人同様になってしまうのではないか・・・?そういう思いが私を囚えて離しません。

ツムラの桂枝茯苓丸を服用し始め、多少は生理がマシになり、貧血治療のために鉄剤の服用も始めましたが、どちらも対症的な治療でしかありません。出口の無い迷路に迷い込んでしまった気分は拭い去れませんでした。



さらにこの頃、夜中にお小水が「ジャー」と漏れた気がして飛び起きました。私の体は一体どうなってしまったの？これからどうになってしまうの？もはや自分ではコントロールできないこの状態に、すっかり落ち込んでしまいました。そう言えば癌だと水っばい帯下が降りるらしい。またしても怖い思いに囚われて、診察時に言いそびれてしまいました。

「このままでは子宮全摘出に向かって突っ走ってしまう。イヤだ、絶対に！」何とか方法があるはず、と、治療法の模索を始めました。ところがどんな本を見ても「摘出＝治療」という書き方しかしていない。どうして取り去ってしまう事が治療なのか、ガンのような悪性の腫瘍ならば仕方ないとしても。私の体・私の子宮なのに。残したい！なぜここまで子宮を残す事にこだわったかということ、私の周囲で婦人科系の疾患に罹り子宮を摘出した方は、殆どが良い結果を得ていないからです。

私の父、母方双方に内膜症、筋腫で全摘出した伯母達がいて、目の当たりにしていた事も、大きかったかもしれませんが。知人で48才で膣式全摘出を受けた方は、数年後に骨粗鬆症になり、現在も治療中です。また、重い物が持てずに腰痛を訴えています。子宮摘出後、十数年で内臓下垂になり、内臓を引き上げる手術を受けた人もいます。3人の子供があった為、30代にして筋腫で子宮を全摘出した方は、半年間も酷い更年期障害に苦しんだと聞きます。

子宮の全摘出が体に与えるダメージは相当だと思います。それに、子宮を摘出してしまうという事は、女にとっては心の支えを失うような一大事です。年齢や未婚・既婚、その他の条件などは一切関係ない問題に思えます。

何度も弱気になりましたが、積極的な治療を望んだのは、治ると信じての事でした。医師の「今の所、経過観察でいい。」と言う言葉は、放っておいてもいい事でなく、いずれ全摘出の手術が対象になってくると言う意味だ・・・そう気づいたのは、あつという間に自分の症状が進んできてからでした。

私の叔母は、35才の時、卵大の筋腫が検診時に見つかりました。症状がなかったので経過観察のみで閉経を迎え、筋腫が消失してしまったそうです。初め、摘出ししか方法がないのなら閉経まで逃げてやる、幸い逃げ足は速い・・・なんて考えていました。そんな奇跡めいた事を、当時の私は信じていたのです。不思議な子宮ちゃん。

子宮にまつわるこんな事もありました。私の友人が酷い妊娠中毒症にかかり、9か月目で1,000グラムの極小未熟児を産んだとき、先生に「女の子で子宮があるから、命が助かった。」と言われたそうです。事実、この様なケースでは男の赤ちゃんより女の子の方が、圧倒的に生存率が高いそうです。この事が頭にあって、生殖器であるだけでなく、何か健康を司るもの・・・そう感じてました。今となっては、正解ですね。「女の一生はホルモンに左右される」という言葉もありますから・・・。

インターネットでも子宮を残す方法を探し回りました。川崎市立病院の子宮動脈閉栓療法が気になり、電話で問い合わせしてみました。対応はとても丁寧で、担当の放射線科の先生に電話が回され、説明を聞きました。保険がきくので、費用も魅力的・・・でもチョット待って。本当に栓をしちゃって大丈夫？筋腫を枯れさせるなら、正常細胞まで影響が出ることもあるのでは？と疑問を抱き、こちらでの治療は断念しました。

主人が「広尾」のホームページを見つけ、10数枚のプリントを渡してくれました。いまでもこれは最大のプレゼントだと思っています。ここなら・この先生なら信頼できるかも？ハッキリじゃないよね？会ってみよう。「広尾」で診察を受けるために上京。

義母オススメの病院があるというので、そこでも診察してもらいましたが、粘膜下筋腫で核摘出は難しい、核摘出だと子宮そのものがペラペラになるほど、こそげ取らなくてはならず、内膜が残せない、との診断。子宮内部に、子宮が収縮できないために排泄されない血液の塊が一杯とのこと。ひどい事になっていると覚悟はしていたけれど、これほどとは・・・。

初診時の「広尾」は、アレーツ、病院？ここでいいの？って感じ。皆さんと一緒に感想ですね。あまりにも静かなので、看護婦さんに「入院している人って、いるんですか？」と聞いたぐらいです。先生も白衣着てないし、変？？？と・・・。「あなたの場合、筋腫の大きさより出来ている場所が問題です。（子宮内膜に突起した粘膜下筋腫でした。）でも大丈夫、元の子宮に戻せますよ。」斉藤先生の言葉は、私の一番言って欲しかった言葉だったけど、とても有り難かったけど・・・。内心、腹部エコーだけで内診も無いし、もっと診察してよっ！！！！の気持ち半分でした。それでも帰りの足どりは軽く、心がすっかり元気になっているのを感じました。

7月の下旬からの生理がいつまでも終わらず、終わったかとおもった3日後、また月経様出血があり、慌ててかかりつけの産婦人科へ……。すぐに止めなくてはならないと、止血剤と中容量ピルのドオルトンを服用しました。

数日後、出血は止まりましたが、またここでも副作用が起こり、つわりのような気分の悪さでした。貧血はどんどん悪くなるようでした。頭まで十分に血が巡っていないせいか、忘れっぽくなり、カラダもとてもだるい。2週間の服用の後薬を止め、数日後に迎えた生理が終わらず、そのまま不正出血へと移行したのでした。

黄体ホルモンの注射と止血剤でも出血が止まらず、横になっていても「ドカドカ」と流れていくのを感じます。特大ナプキンの後ろにナイト用、ナイト用ショーツに子供のまきまきタオルで重装備しても、30分と持ちません。ナプキンを交換したくてトイレに行く時も、子供がオシッコを我慢しているように、脚で小股を圧迫しながらソロリソロリと歩きます。そうしないと「ドカドカ」と出血して大変なことになるのです。やっとの思いでトイレに着いたら、脚を緩めて下着を下げなくてはなりません。その時に「ドバツ」と出血し、トイレがスプラッター映画のようになってしまい、家族を怖がらせてしまいました。

## 術前

術前検査を受けることが一つのハードルでした。9月。「広尾」の術前検査を目前にして、大出血。ドオルトンを内服していたにも関わらず。夜中、かかりつけの産婦人科にすっ飛んで行きました。夜勤の大学病院の先生がいらして、今までの私の経過などご存知無いのに、診察前にアレコレと、筋腫分娩じゃないか？だの、何とかして欲しいだのと言う私に、先生も主人も面食らっていました。そして主人が一言。「初めての先生にそんな事言ったってダメだろ。とにかく診察受けるよ。」ハッと我に返り、大人しく診察していただきました。

筋腫分娩の心配は無く、翌日の昼間、かかりつけの担当医に診てもらったほうが良いとの事でした。この時、私は何が何でも広尾に行くぞ！！との気持ちで、出血を止めるために内膜を搔爬してもらうつもりでした。でも、この頃には精神的にもかなり追いつめられていて、「大出血を起こして、私の知らない間に摘出されてしまったらどうしよう。」と、そういう暗い事ばかり考えていました。

麻酔をかけられるのが怖かった。出血に驚き、もしかしたら広尾までいけないかも、な～んて弱気になってました。昼間の担当の先生からも、「お産で来院していた頃のアナタじゃないわ。何をそんなに落ち込んでいるの？シッカリしなさい。」とたしなめられました。この先生はとても良い先生で、「広尾」で手術を受ける事を打ち明けたときも「患者さんが望む治療を受けられるのが一番よいことだから、それまではこの病院でできるだけことはしましょう。」とおっしゃってくれたのです。

検査日も朝から出血しており、慌てました。処方通りの2錠飲んだら、心臓がドキドキして胸苦しい感じが……。自分の体の変化が、かなり怖い。佐々木病院での術前検査のデータを持って、主人と二人して齋藤先生の元へ。あっさりと「元の子宮にもどりますからね。」と言われ、心底、有り難かった。

でも、地元に戻るのが怖くて、手術までの10日間、義母宅に居候を決め込みました。「何かあっても横浜まで来たら助けますよ。」という齋藤先生の言葉がとても頼もしい……と思っていた週末にまた出血して、半ばパニックを起こしながら「広尾」の留守電に伝言を残しました。不安な中、先生から連絡があり、薬で出血を止める事・副作用が怖ければ30分ほど時間を空けて服用することを、アドバイスいただきました。

## 「広尾」での合宿日記

いよいよ運命の……。初手術の日。あまり眠れないまま迎えた朝。手術患者は3人、私からのスタートでした。10時。看護婦さんの「さあ、行きましょう。」の笑顔。緊張。今日までよく持ったな、頑張ったな。夢にまで見た手術、半分嬉しい気持ち。手術台にのった途端、とても緊張してきた。

手術着の齋藤先生から「どうぞ、安心なさって下さい。」の言葉。勇気100倍。心配していた麻酔は、思った程痛くなく、背中を丸めた時の点滴の血が逆流した方が痛い。「もう始まってますよ。」の齋藤先生の声を、ボーと聞きながら「一生に一度の体験。もったいなくて、眠るものか。」

この時、既にお腹がパッカリ開いている事を知らず……。自ずと耳を澄ましてしまう。私の子宮、どうなっているんだろう。早く「子宮も卵巣も綺麗に残りますよ。」って言って欲しい。安心して眠りたいから。そのうち、「痛み」のような感じが。「なんか、下の方が痛いみたいなんです。」あくまで「痛いみたい」。

麻酔が点滴に入れられて、何か酔っぱらいみたいになって、気分がいい。「ジーッ」という音と焦げている臭い。これが本にあったレーザーなのね。胸の皿の上に、何か細かいものを取り出している。後で知っただけで、これが沢山のポリープだったらしい。看護婦さんが踏み台に上り、「中の写真を撮りますね。」少し驚いたが、何となくう・れ・し・い。先生の「もう終わりましたよ。綺麗に取れましたよ。」の言葉に一瞬ドッキッとして、やったー終わったー！その直後、強烈な睡魔で意識無し。

部屋に戻って間もなく、急に悪寒がして発熱した。お腹を切ると必ず熱が出るらしい。熱くて汗が吹き出て、顔を拭きたいのだけど、うまく拭けない。主人が心配して声を掛けてくれたのに、ただ眠いだけ。時々来てくれる看護婦さんに、「眠いです。」と言うと「良いことです。ドンドン寝て下さい。」との答え。どうして？後で知ったことだけど、麻酔の副作用で嘔吐する可能性があるらしい。その点、私はとてもラッキーだった。だって、昼に終了後、夜中までウトウトずっと眠っていたのだから。

自動血圧計を管理に来てくれた看護婦さんに、「何かそろそろ麻酔が切れてきたみたいなんですけど、鎮痛剤下さい。」と私。「もうとっくに切れてますよ。ここからは鎮痛剤我慢して下さいね。」全くのんきな私だった。喉はず〜っと渴いていた。朝になって、ベッドの上での歯磨きが可能になる。もちろん、看護婦さんの手助けがあっただけ。

2日目。歯磨きから始めて歩行まで、実りのある1日。ここからは「日にち薬」という表現がピッタリ。導尿が外れて、自力でお部屋のトイレまで行って、排泄する時の痛み。また、そこから立ち上がる時の痛み・・・。お腹を切ってこんなに痛かったのか、という感じ。痛い痛いと言っている私に、「子宮を取っても痛いんだから、ましてや残してもらったんだから我慢出来るよね。」と主人の言葉。グッと詰まりました。

午後から、看護婦さんの付き添いの元始まった歩行訓練も、夕方になると、ゾンビ歩きの患者が一人で右往左往しています。「痛いですね。」が合い言葉でした。夕食に、ヨーグルトジュースがでて、水も沢山飲めるようになりました。ヤッター、一気にゴクゴクいくぞ！！とっても幸せな瞬間・・・。夜中、ザーと水便あり。トイレももう慣れた？・・・かな。

3日目。朝からウロウロ歩き、ベッドで休んでいると、斉藤先生が「歩いていなくちゃ癒着するよ。」と恐怖の言葉をかけてくれます。飛び起き(?)、皆さんと二階のソファでおしゃべり。もう階段昇れたんだって、感動しました。

4日目。お腹の管が抜け(これが、キュッと痛いです。)身軽になって、廊下をウロウロしたり、シャワー浴ができてサッパリ。お昼にうどんが出ました。ここまで来ると、自分がどんどん回復しているのがよく分かります。廊下を闊歩していると「跳ねて行きそう。」と先生に言われました。

5日目。点滴が外れて幸せ。お昼には先生との昼食会で、お寿司を頂く。そのまま、お茶会に移行。初診の時からここに座ることを夢見て、叶った幸せ。患者さん同志って、お互いの摘出物を自慢して、ファイルを見せ合い、笑って・・・。私達って、これから笑えるんだ・・・。「あなたはこれからドンドン元気になりますよ。」斉藤先生がおしゃった。私の欲しかった言葉。この頃、筋腫に克つたーと何見てもニヤニヤ。

6日目。土曜日。朝に退院。電車に乗れた。元気に普通の歩幅で歩けた。当たり前の事が新鮮に映り、全てに感謝した。

## 術後、帰宅してからの様子

術後2週間でお産の後の収縮に似た強い腹痛が起こり、とてもイライラした時期がありました。痛みは1週間ほど続き、お腹が少し小さくなりました。この頃、便秘に悩まされました。広尾に入院中は、ザーと快便だったのに。先生にメールで相談すると、筋腫のせいで上へ押し上げられていた腸が元に戻っていないため、正常になるには多少時間がかかりますとのことのお返事でした。

11月から普通の生活に戻り、仕事に復帰。11月5日、術後初めての生理。ヤッター！！！！初めの半年は生理が重く、量も多いかもと先生に言われていました。まさにその通りで、鎮痛剤を飲んで寝込みました。ただ、今までのような「塊」は全く見当たりません。多い時は、手のひら半分大のゼリー状のモノを引っ張りだした事もあったのに・・・。

12月から現在(2001年6月)までの生理は、量も少なく、3日も過ぎればほとんどなくなり、不正出血も一度もありません。足かけ4~5日間ぐらいで簡単に終わってしまいます。2日目の夜に一応、ナイト用は使うものの、もうウルトラナイト34センチは不要。生理痛もなくなり、始まる前に腰がだるくなり、お腹が少し張るぐらい。始まってからは「絶好調」です。もう生理は怖くない、怯えることもありません。

4月に術後検診でMRIに入りました。「変な物、映っていたらどうしよう。」怖い気持ち半分でした。もしかすると自分は特異体質で、再発したら?と悪いことばかり考えてしまうのでした。斉藤先生に半年ぶりにお会いして、「いい顔色になった。」と言われた時、MRIの画像の説明で、子宮は元の大きさに戻っていて心配無いと伺って、ほっとした事を覚えています。

後日、送られてきたコピーを見て、子宮上部に点状のものがあって驚きました。でも、それは子宮の上に腸が重なったために、腸の内容物が映っていると説明いただき、安心しました。

## 最後に 悩んでいる皆さんへ

今、日を追うごとに斉藤先生の手術は確かだった、そう確信しています。初診時に、入院していた先輩方から「あなた、ラッキーよ。斉藤先生はこの分野にかけて日本一の腕前なのよ。」と言われ、迷っていた私の背中を押されたのでした。そして術後、ゾンビ歩きの私に「おめでとうございます。」と下さった、フランスからの先輩。斉藤先生の手術を受けられた幸運を祝ってくださった、なんと素敵な言葉でしょう。術後検診でお会いした患者さん達にも、少し先輩ぶってこの言葉を伝えたのでした。

「広尾」のホームページを知ったことも、偶然ではなく必然だった事のように思えます。金銭的に迷っていた私に、強く勧めてくれた主人の存在も大きくなりました。今でも高かったなと言う私に、「満足している手術なら決して高い物ではない。」と主人が言います。

「広尾」を見つける前、摘出も考えていた私に「子宮があってもなくても、心は変わらないからね。」と主人は言ってくれました。ありがたくて嬉しい、でも重い言葉です。こんな主人のためにも子宮を残して元気になりたい!その一心で「広尾」に巡り会えたのだと思います。

でも、斉藤先生一人の技術を待っている方も多く、経済的にも皆がみんな受けられる手術ではないことは解っています。この事に心が痛みます。迷っている方は一度、「広尾」で診察を受けて下さい。あまりにもあっさり、「大丈夫、綺麗に治せますよ。」と言われるでしょう。内心、多少の疑問も持ちながら、でも賭けてみようと思えば、賭けてください。

初め、義母は保険が利かないなんて・・・と疑っていましたが。手術を月曜に控えた週末に、たまたま友達が「広尾」で手術したという人に会ったのです。「大丈夫、成功しますよ。友達もとても元気ですから。」その言葉にどんなに安心したかしれません。遠くて来れない私の母に替わって、何度も何度も足を運んでくれたのでした。そんな多くの偶然にも助けられてきました。

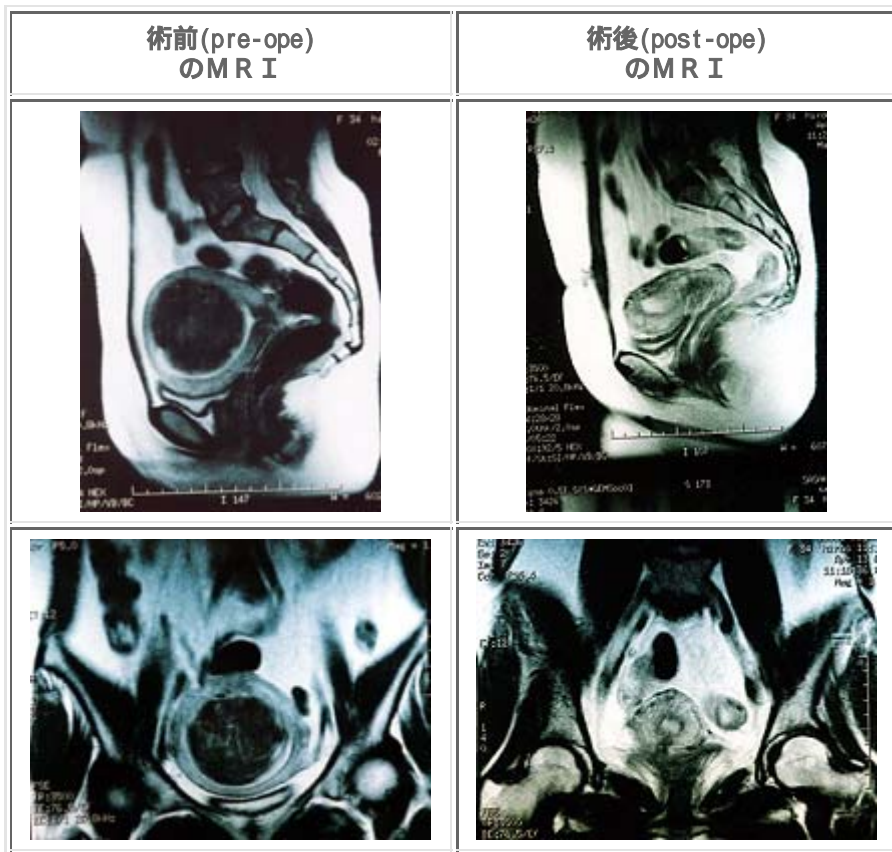
患者の大きな支えになって下さったナースの皆さん、私達の不安も話も全て包み込んでくださって本当に感謝しています。「大丈夫ですよ。」の一言で心が軽くなりました。それに皆さん、注射がお上手であまり痛くない。驚きです。

毎週月曜日になると、大忙しのスタッフの皆さんのことを思い出します。どんなに感謝しているか言い尽くせません。「広尾」は温かい所です。何回も「もう駄目だ」と思いつつ、辿り着いた場所です。今は只、ここの卒業生であることが嬉しく、悩んでいる方の役に立ちたいと思います。

諦めかけたとき、全摘も一つの根治的療法とも思い詰めました。今でも否定はしませんが、あなたの子宮です。ご自身の健康について、10年・20年先をよく考えてくださる事を願ってやみません。医師による選択ではなく、「あなた」は「あなたの体」をどうしたいか?ご自身で選択をして下さい。21世紀に病気を持ち越さない。その願いが叶って、私の中で人生がリセットされた気分です。

広尾での手術後、こんな話をしてくれた方がいました。「今のままでは妊娠できないとの医師の言葉を主人に告げた時、露骨にイヤな顔をされた。その時、自分が女として不完全な様に思えた・・・。」少子化で女が子供を

産まなくなった・・・そう言われていますが、そうじゃない。婦人科の疾患が増えているのにも、治療の選択肢が余りにも少ないのも一因だと思います。悩んでいる人の気持ちに、「広尾」で“まさら”にリセット出来ますように。



	術前(pre ope)	術後(post ope)
赤血球(RBC)	363	457
血色素(Hb)(g/dl)	10.9	13.0
ヘマトクリット(Ht)	32.7	40.8
CA-125	28	
備考	子宮内膜腔に突出した粘膜下筋腫	

## 「私の選択」

私もつい最近、広尾メディカルクリニックで手術をしました。私はここにたどり着くまでにはかなりの時間を要しましたし、手術を迎えるまでに色々な問題が山積みでした。私の体験が、今、生理時の出血や痛みで悩んでいる方の参考になればと思います。

### 筋腫が判明、そして広尾に出会うまで

筋腫だと分かったのが、去年(2000年)の9月でした。(私の場合、生理が始まった年頃は痛みが激しかったのですが、漢方薬を飲み、年齢を重ねるうちに生理痛は無くなっていました。)生理がなかなか終わらず、でもそろそろ終わるだろうと思っていた矢先のこと。事件勃発です。

友達と遊んだ帰り道の事。なにやら流れ出る感覚。生理中でしたが既に終盤の5~6日目。なのに一体どうしたんだろう?!ただ、ただ、「まずい!」と。電車の駅ごとにトイレに行き、ナプキン交換しても、しても間に合わない。血管が切れたのかと思うくらいの激しい出血。家に帰ってもトイレから出られず……。腹痛こそ全くありませんでしたが、あまりの出血に驚き、夜間でもあったので救急病院を受診。

内診台、初めての経験。緊張と羞恥心、不安が混じる中での診察……。すると下着も口クに着けていないのに、突然内診台のカーテンが開かれ、エコーを見せられ、思いも寄らない一言。「筋腫だね。大きいから出血したんだろう。全摘かなあ。」いきなりカーテンを開けられ恥ずかしいと感じる余裕も無く、ショックな一言。

次の日、外来でも違う先生から同じ一言。経過観察で通っていると今度はまた別の先生から「(お腹を)開けなければ分からない。」手術が終わって気づいたら子宮全摘、それも状態によっては有りだと。

そんなのイヤだ!絶対に。必死で病院を探しました。でも、行く病院、行く病院で同じようなことを言われて、次第に病院に行くのが怖くなりました。診察を受ける度に自分の惨状を見せつけられる……。何とかならないものか。将来的にはやはり子供は欲しいです。子宮が残ってさえいれば、妊娠・出産ができる可能性はゼロではありません。子宮を残したい!そんな思いに駆られて、インターネットで調べているときに「広尾メディカルクリニック」に出会ったのでした。

診察時、斎藤先生は、画像を見ながら「大丈夫、あなたより大変な人はたくさん入るんだから。」とおっしゃいました。私の子宮は大丈夫なんだと言われたときは、心の底から嬉しかった。その日、2Fのリビングで、入院している人たちと話せたことが印象的でした。

初めのうち、家族は・保険が効かない・インターネットで見つけた怪しげな?クリニックなので、諸手を挙げて賛成はしてくれませんでした。でも、信じるのも決めるのも『私自身』です。そのうち家族も一緒に診察に行き、先生の著書を読むことで、理解・納得してくれましたので、これは大した問題にはなりませんでした。

ただ、手術が混んでいるらしく、手術まで6ヶ月待ち。その日が早く来ないか楽しみに、またそれまで大量出血しないように、祈るように待つだけでした。

### 手術前・ショックな出来事

手術の日を指折り数えていたところ、またしても突然の出血!!あの流れ出る感覚、血の気が引く感覚。貧血のため、即入院になってしまいました。手術の1ヶ月前、予定では今回の生理を乗り越えれば大丈夫だったのに……。入院中もこれで手術が出来るのか心配で仕方がなかった。でも貧血は、点滴と食事療法の効果あってか、手術が出来るほどまでに改善されました。

ところが、それだけでは終わらなかったんです。次回の(術前の)生理を遅らせる薬を飲まなければ、せっかく貧血が改善してもまた出血し、貧血になってしまう。事情を話し、入院先の病院に薬を出して貰おうと思いましたが、出してもらえず。ここで手術をすればいいと。「ホルモン剤をして6ヶ月待ち、それから摘出手術。生理

を止める薬には副作用があるから今は使わない。」医師からの話はナースステーションで30分以上も続き、私の不安は増すばかり。その看護婦さんが何度か私を励ましてはくれましたが、医師が方針を決める訳ですからどうしようもありません。ここまで貧血を改善しては頂いたものの、逃げるように退院となってしまいました。

それでも退院した後に不安は残るもの。手術は無事にできるのか、心配でたまりませんでした。が、「広尾」に電話して、看護婦さんにホントに励まして貰ったものです。こんなにも医療従事者の一言というものは、患者である私の心に残るものなのだと強く感じました。

## 手術を無事におえて

色々ありましたが、無事に「広尾」にたどり着き手術を迎えることができ、今を迎えています。手術はもちろん痛かったけれど、でも何よりも子宮が無事だったことが嬉しい。入院中も、同じように生理で悩んでいた体験を持つ方と過ごし、悩みも打ち明けられて、本当に良かった。

術前の病院も、色々かかった病院も、婦人科は産科がくっついていますよね。外来で待っている間や入院中の病室においても、ずっと妊婦さんと一緒。それが子宮を全摘出・子供ができなくなるかもしれない不安を持つ私には、何よりも辛かった。でも「広尾」は、皆同じ婦人科の病気で悩んでいる人達、そして同じような手術をした仲間。手術をした日も同じ・退院も同じ。話をするのに抵抗はありませんでした。

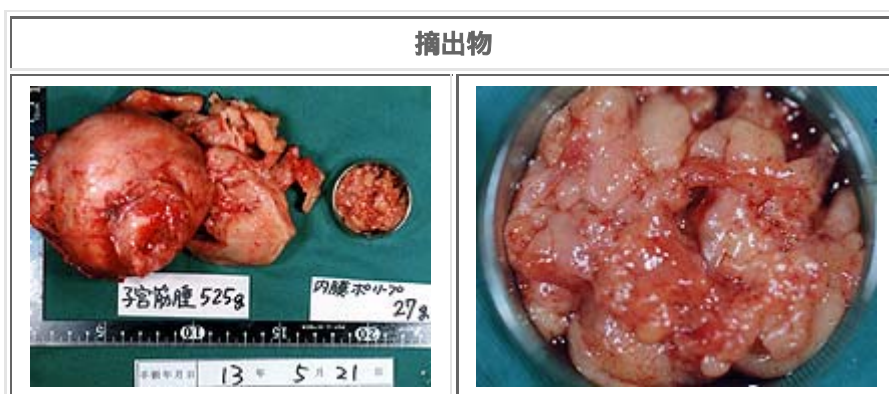
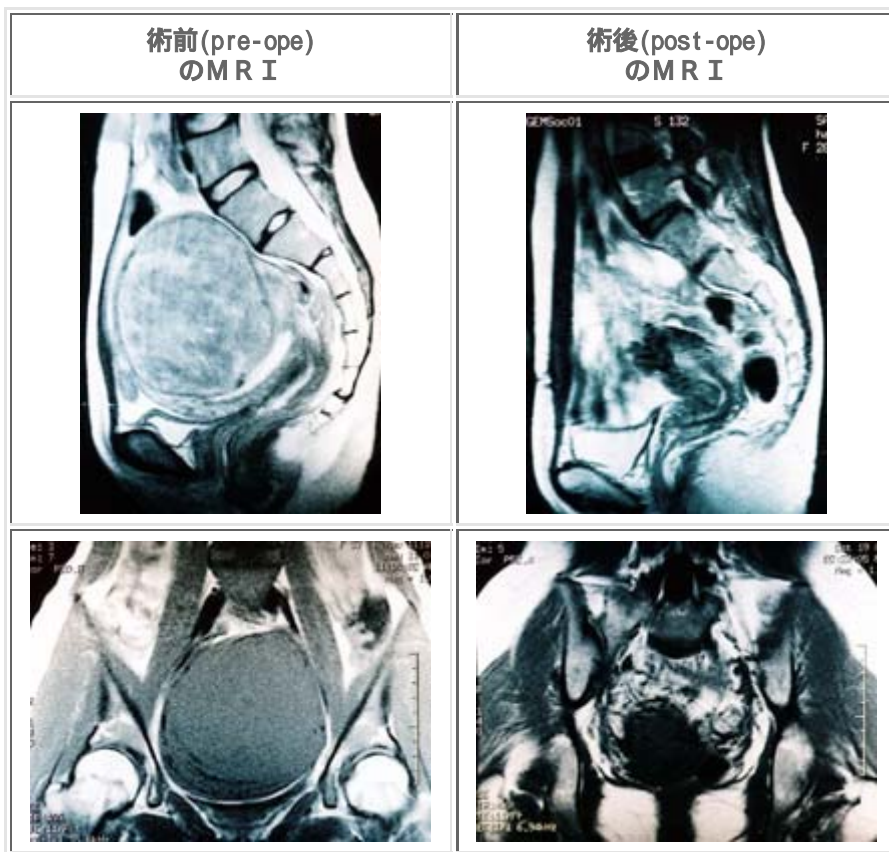
入院中は入院前の辛かった事の自慢？話や、術後に貰う手術記録を見せ合いっこです。その方達とは、今もメールのやりとりをして、お付き合いが続いています。術後健診はまだ先の話ですが、これから自分がどう変わるのか、楽しみにしたいと思います。

## そしてそんな私からの一言

いろいろな選択方法がある中、私は「広尾」を選択して本当によかったと思います。今、不安に思っているみなさん。あきらめないで！！それと『私は大丈夫』って思ってるみなさん。私は今27才です。この歳で筋腫になってるなんて、思いもせませんでした。

生理は人と比べられるものではないけれど、今、生理用ナプキンも『長時間用』の大きく高性能なモノが売られています。それを使わなければならなくなった時に、振り返って考えてください。個人差はあるかもしれないけど、それは体のシグナルかも。要注意ですよ。

それと、今、不安に思っている方は勇気を持って受診してみてください。早ければ早いほうがいいんですから。最後になりましたが、斉藤先生、看護婦さん、事務の方、本当に有難うございました。



	術前(pre ope)	術後(post ope)
赤血球(RBC)	403	443
血色素(Hb)(g/dl)	11.1	12.8
ヘマトクリット(Ht)	33.9	41.0
CA-125	26	
備考	術前血色素 6 ホルモン治療を続けていた。	